明治三十六年十一月二十日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百六拾八號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回十五日發行
內務省許可明治二十一年二月二十八日

婦人衛生雜誌

第百六拾八號 目次

本會講演

一肺病と其療養所　ドクトル 松山陽太郎

寄書

一流行性腦脊髓膜炎　醫學士 竹中成憲

一結核慈善病院を設立せよ　仝 上

婦人と子供

一育兒院のこと其他　醫學士 唐澤光德

衛生雜話

●旅行雜話●福岡醫科大學附屬醫院●佐賀の奥山●長崎市の暑さ　醫學士 石原喜久太郎

●滊車中でなしたこと

一口話

●手療治●腸窒扶斯と赤痢●理髮衛生　ドクトル 富士川游

反古かご

●婦人の職業疾患に就きて　醫學士 恩故生 譯

家庭看護法

●前號の續　醫學博士 三宅秀

質疑欄

●牛乳檢査法●牛乳檢査●テル地とセル地とは衣服としていづれがよきか●灰吹の痰●牛肉を柔らかにすること●小兒とお茶●小兒のたゞれ●ベルツ水●御斷り質疑のかず〳〵

食物調理法

●手輕西洋料理法●煮松蕈●燒松蕈●梨の甘酢漬●無果花のジヤム●料理科會員　日本橋 田村さ代子

大家談片

栗ふくませ

冬の衛生

中外彙報

●腦脊髓膜炎●肺結核の外氣療法●白癬病●理髮者取締●軍隊衛生の好成績●東京感化院●人体の砒石檢出●鉛毒豫防●肺病と硝子工●救急箱と巡査派出所●豚肉の注意●体溫器●飲食物防腐劑取締●牛乳の良否見付け方●紅葉山人の遺骸解剖●一種の鼠とり

●全國傳染病●脊髓膜炎とペスト●雜錄

大日本婦人衛生會記事

本會十一月例會●高崎支會●茨城支會●宇都宮支會●入會轉居等

●本會十二月例會

來十二月五日（第一土曜日）午後正一時半より晴雨に拘らす本年の納會を麴町虎の門内東京女學館講堂に於て相開き左記の講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也　追而衣服は可成御質素に相願候

一家庭看護法（前回の續）　醫學博士　三宅秀君

一毛髮病の話　一等軍醫正 醫學士　山田弘倫君

明治三十六年十一月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとゝ緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相携て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは洵に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衞生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し倘之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに資すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて庶く江湖の諸姉妹に告け其贊成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

發明者總代

私立大日本婦人衞生會規則

（明治卅二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（亦付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨規を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に仰出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の指名に依り會長之を命ず但書記は都合に依り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は日務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄庶務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時總會を開くことあるべし評議員會は時々開會須要の事項を評議するものとす

第十七條　毎會學識經驗ある人々に衞生上の講義演說談話を囑托し會員をして之を聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講話演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるへきこと）

第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計主任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衞生會某支會と稱し其規則は本會の規則と牴觸せざる樣記名すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に送付すへきを以て其資役を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就ても亦同じ

第廿九條　支會は毎集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し毎會に於ける衞生上講義演說談話等の筆記及內外彙報本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき亦同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を添冊に登錄し倘

本會雜誌を以て報告すべし第廿二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）第廿三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第廿四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは警告することあるべし第廿五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽山三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
仝　三浦教子

評議員　伊集院しげ子
仝　石川良子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　四條升子
仝　穗積歌子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　子爵夫人　田中いよ子
仝　丹波良子
仝　高橋季子
仝　田村きよ子
仝　相馬隆子
仝　男爵夫人　南部展子
仝　中濱芳子
仝　伯爵夫人　松平充子
仝　子爵夫人　松平正子
仝　子爵夫人　松平久子
仝　小堀小ゆり子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

〰〰〰〰〰〰〰〰

本會特別贊成員

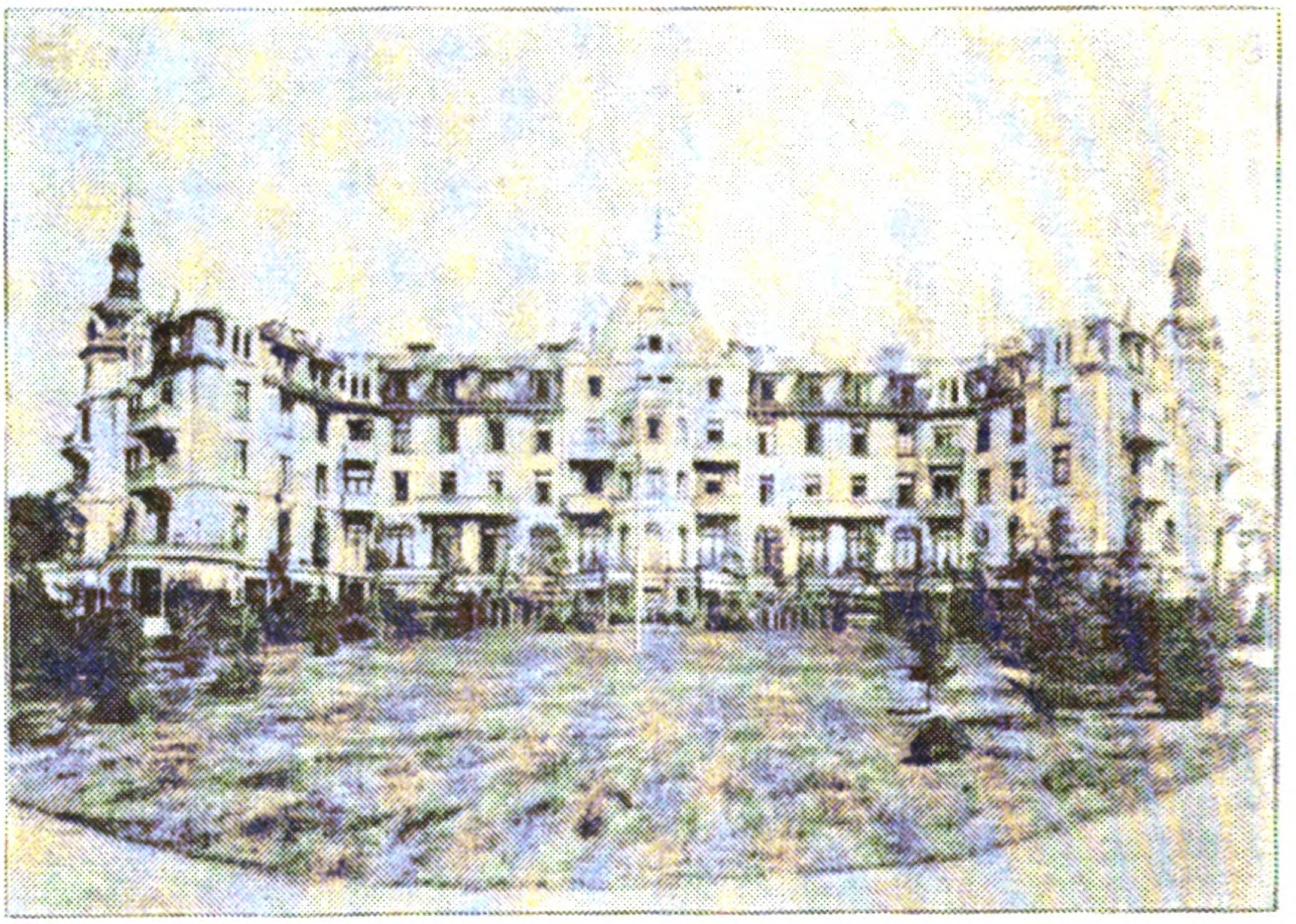
（●は本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
地方視學官　●色川圀士君
醫學士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
赤十字社內科主任　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
貴族院議員　●濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　●萩原鋼四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
衛生局長　●長谷川泰君
新潟　●長谷川一詒君
小兒科　●小原利之君
醫學士　●林春雄君
醫學士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君

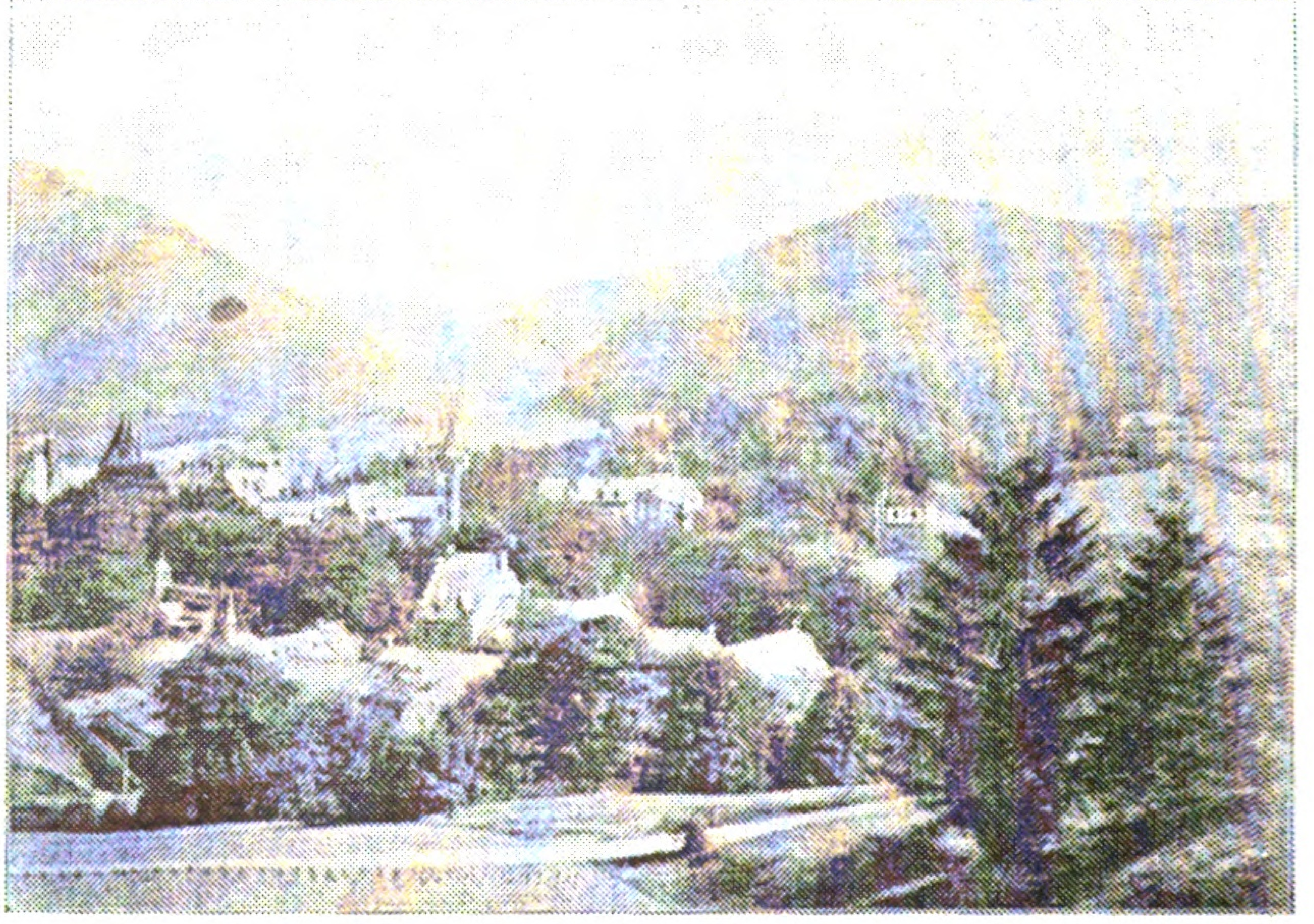
步兵少佐　●堀內文次郎君
醫學博士　●土肥慶三郎君
醫學博士　●岡田和一郎君
醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　●加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　川上雅直君
ドクトル　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山　君
醫學博士　●高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學士　●田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
[illegible]　高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　高橋良頤君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●川村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　米山彥郎君
三等軍醫正　星野篠光君
醫學士　●宮本叔君

一等軍醫　橫井忠國君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部甕男君
理學博士藥學博士　●長井長義君
新潟　長井千尋君
醫學博士　●中濱東一郎君
新潟　中村勇三郎君
醫學士　村松秋三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
[illegible]　●山根正次君
[illegible]　山川春二君
醫學士　●丸茂文良君
衛生試驗所技師　●丸山長四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉[illegible]君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顯君
[illegible]　●後藤新平君
帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●中野梁君
文部視學官　●寺田勇吉君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寬君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷全次君
產科婦人科　●水原漸君

ドクトル　●久保田誠磨君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　淺田[illegible]君
ドクトル　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山義六君
[illegible]　秋田聰太郎君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君
ドクトル　●榊順次郎君
醫學士　●榊保三郎君
醫學士　櫻井恒次郎君
醫學士　●北村精造君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學士　●木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學士　●三輪信太郎君
新潟　水野欽君
伯爵　土方久元君
醫學士　島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●須田卓爾君
●ミス、ヒユース
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　波多野傳三君
醫學博士　●吳秀三君
八王子　和田[illegible]君



「ライン」河畔「ホーヘンアッフ」ニ於ケル肺病療養所
一千八百九十二年(十四年前)設立



「ゴルベルスドルフ」ニ於ケル「ブレーメル」氏肺病[illegible][illegible]療養所
一千八百五十四年(五十二年前)創立

婦人衞生雜誌第百六拾八號（明治三十六年十一月二十日發行）

演説

●肺病と其療養所の話（於本會）

ドクトル　松山陽太郎君演説

佃速記事務所員速記

唯今三宅博士が大層面白い家庭看護法のお話をなされまして、極めて有益なることでございます。デ私は肺病と其療養所と云ふことに就てお話致します。併し肺病のことに就きましては、近來新聞や雜誌に掲載され、又は御演説をなさる方なども澤山にございまするので、種々御聽取になつたこともありませうが、併しまだ御聽取のなかつた事柄も多少はあるだらうと思ひます、故に多少の利益もあることゝ思ひまして此お話を致します。

此療養所の設備は、まだ日本に完全したものがございませぬ、それ故日本の例を引く譯にも參りませぬから、私が外國で見て參りましたこと、主に獨逸の療養所の景况に就てお話を致さうと思ひます、デ唯療養所と申しますると、肺病患者を收容して、治療のみする所のやうな意味でございますが、實は一方では肺病の傳染をも防ぐ爲に隔離すると云ふ目的にもなる故隔離療養所と申して宜いのであります。それて此療養所を完全に建てまするのには、非常な手數も要しますし、なか〳〵の大事業でございますから。容易のことではありませぬけれども、何うにかして日本でも拵へなければならぬと云ふ。今日の狀態になつて來て居るのでございます。

先づ肺病のことからお話を致します。此病は俗に肺病と申しますが、醫者の方では肺結核と稱へるのでございます。デ太古、即ち今より約二千三四百年も前、ヒポクラテスと申しまする、醫者の先祖と云つても宜い人でありますが、其人の時代にも肺病は世の中に存在して居ると申して居つた次第でございま

す。倘其先生の弟子にイソクラテスと云ふ人がありまして、此人は、肺病は傳染するものであると云ふことを唱へて居りましたけれども、何うして傳染するのであるかと云ふ原因は勿論分りませぬのでございました。爾來凡そ二千年の長い星霜を經まして、西暦千八百八十二年、今から二十四年前、獨逸伯林のロベルト、コッホ氏が初めて此病の原因を發見しました、即ち結核黴菌と稱へまする、極めて小さい黴菌で三百倍位の顯微鏡でも染色法を用て、漸く見えまする位な、ものであります——今日顯微鏡は持參致しませんけれども、玆に大きく畫きました圖を持つて參りました、是は顯微鏡で見ましたもの丶七千五百倍、斯う云ふやうに色を着けました、細長い棒見たやうな黴菌でございます、(黴菌ノ圖を示す)其黴菌が肺の中に這入りますれば、則ち肺結核と云ふ病氣を起します。又其他喉頭でも、或は消化機の腸にも胃にも起ることがございます。又淋巴腺の結核、即ち俗に瘰癧とも稱へます。何處からでも身體の中へ此黴菌が這入りますから隨分澤山の害をなします。其中でも呼吸機に這入つて、肺結核を起すのが一番多いのでございます。此黴菌が人體中殊に肺の中に這入らなければ、決して肺結核と云ふ病氣は起らないと云ふことが、此黴菌發見以來確められたのであります。彼の虎列刺病は虎列刺の黴菌が這入らなければ虎列刺と云ふものは起らない。伯斯篤にしましても同樣に、伯斯篤黴菌の爲に起るのであります、是と同じに結核黴菌が肺の中に這入つて肺病、則ち肺結核を起すのであります。虎列刺とか伯斯篤とか申しますると、非常に急激に起りまして、僅かな間に多數の人に傳染しまして、大變な害を與へるものでございますから、人々が非常に之を恐れまして盛んに消毒をしたり豫防法を講じまするので、虎列刺とか、伯斯篤とか云ふやうな、急性に激しく來る病氣に對しては注意をして、若し一たび此病氣が發生いたしまするど、傳染病豫防規則で豫防消毒等を致します。即ち其病人の出た家は隔離して、他の

人どは少しも交通をさせないやうにする、即ち交通遮斷と云ふものを行ひます、是が段々激しくなりますれば、或は五軒なり十軒なり周圍の家と五日とか一週間と云ふ日數の間交通を斷ちまして、其間に病氣が起りません時は、再び交通を許すと云ふやうな規則が設けてあります。又病人の方は直ちに避病院へ送つて仕舞ひます、其他家屋は消毒藥で消毒をして十分に用心を致し、又激しい時には燒拂ふと云ふやうなことも致しまする。先般神戸、大阪、或は橫濱等に伯斯篤の流行いたしました時などに、燒拂つたこともございました、時に依るとさう云ふ果斷な處置をすることもあります。斯う云ふ風に激しく起る傳染病は豫防消毒法規則と云ふもので、十分に之を豫防しまして、病毒が蔓延しない間に十分之を豫防して直ちに蔓延することを防ぎ得るものであります。斯う云ふ急性に來る傳染病を媒介するものは、主に水でありますが、六七年以來東京市中に上水が出來ましてからは、傳染病と云ふものは追々減少して來て、今日では昔のやうに虎列剌が非常に流行るとか、赤痢病が流行すると云ふやうなことも少くなりましたのでございます。

歐羅巴に於ては、土地、家屋、道路等總ての衞生事業が發達して居る爲に、急性に起る——唯今申上げました虎列剌、赤痢、伯斯篤と云ふやうな病毒が生息して居ることが出來ないのであります又下水も完全して、地下を傳はつて出て行くと云ふやうな工合でありますから、是等の傳染病は殆ど見ることは出來ませぬ。私が獨逸に居ります時分、墺地利の「ウィンナ」で千八百九十八年に伯斯篤が起つたと云ふで、非常な大騷ぎをしたことがございましたが、其原因を聞きますと、是は墺國ウィンナ大學のドクトル「ミユルレル」と云ふ人が、印度から取寄せました伯斯篤黴菌を、其研究室で試驗をして居りました際、過つて其病毒に感染して、自分と看護婦二名が斃れました。此時は非常の騷ぎでありましたが、唯此三人だけで他に蔓延せずに濟みました。又昨年の六月——

是は私の歸朝後て、新聞て見たのでございますが、伯林に伯斯篤の騷ぎがございました。是も矢張り前の例と同じく、伯林大學の醫師ザックスと云ふ人が伯斯篤の黴菌を取り寄せまして、動物試驗をして研究を致して居りました時に、其病毒に感染しまして其人と、其人を診察した醫者と一名の看護婦が斃れたのであります、けれども是亦他には少しも蔓延致しませんて濟みました。デ歐羅巴に於て伯斯篤と云ふ病氣は、昔は隨分流行も致しました事もありましたが、近年に至つては唯此二度あつたのみてございます。是れは實に消毒法が十分に出來、豫防も完全に行はれ、其他總てのものが十分に行屆き、個人も亦衛生に注意した爲めに蔓延せんて濟んだ譯てあると考へます。我國ても將來上水、下水等が完全になり、家屋の構造も十分衛生に適するやうになつて來れば、斯かる急激に來る傳染病は、確かに防ぐことが出來るに相違ないのでございます。而も一方ては斯う云ふ風に急激に參ります傳染病は、果斷な處置をして防ぎ、又上水、下水、家屋の構造等を衛生に適つたやうに拵へますれば、撲滅させることも出來ますけれども、之とは違ひまして甚だ防ぎ難く思ひまするのは、則ち唯今申上げましたる肺病であります。

それで急性に來まする病氣でありますれば、之を果斷の處置に依つて防ぐことも出來ますが、肺病の方はさう果斷の處置をして防ぐことが出來ない、さうして病氣も一時に甚だしく蔓延もいたしませぬ、殆ど目に見えない內に、ヂリ〳〵ヂリ〳〵と擴がつて、唯今の所では可なり澤山の病人があるやうになりました。さう云ふ次第でございますから、近來何うにかして此肺結核の病毒を撲滅して、無くなして仕舞はうと云ふので、伯林、ロンドン、マドリッド抔で結核撲滅會議と云ふものを開きまして、何うかして結核を世の中から無くなして仕舞はなければならぬと云ふて、非常に研究して居られます。日本に於きましても近來是が研究に非常に力めらるゝ次第でござ

いますが、併ながら目下の有樣では確かに此病氣を防ぐと云ふ方法も見當りませぬのでございます。故に皆樣方が何うして傳染するかと云ふ、其道を十分に御辨へになつて、各自が銘々に豫防して行くと云ふ御心掛を持て御出でになることを希望いたします。」

「何う云ふ路から此結核黴菌と云ふものが肺の中に這入るのであるかと申しますると云ふと、其逕路は先づ第一に結核黴菌が塵埃の中に混つて呼吸氣管に這入つて來る即ち其黴菌其病氣を患へて居る病人の喀痰の中に含まれて居つて、それが乾燥しまするとと埃塵など丶一緒に混つて居る故呼吸に依て來るのであります。第二には飲食物に混じて、飲食物と一緒に胃の中に這入つて腸に這入り、腸の結核を起します。第三には皮膚の傷から這入る。先づ主なる徑路は是だけに區別されて居るのであります。

それで此結核黴菌は其病人の痰の中に存在して居ると云ふことが明かであるならば、何うしても其痰を注意して處置して行かねばならぬ、無暗に方々へ痰を喀き散らして居つた際には、其痰が乾燥して遂に埃塵など丶一緒になつて、空氣の中を飛び廻つて、居ると云ふことは、明瞭な次第でありますから、いつ何時此黴菌を吸入するであらうか分らない、實に恐ろしい次第であります。それでありまするから近來は各人の居宅、或は學校、兵營、滊車、滊船、總て人の多人數集合する所には、何れも痰壺と云ふものを備へて置いて、決して他の處には唾させないと云ふ規則になつて居る。斯く痰壺の中へ痰をすると云ふことにして置けば、漸次黴菌が埃塵の中へ混つて、吸入すると云ふ危險がなくなる譯であります。コルネットと云ふ人は、曾て肺病患者の寢て居る室で、六週間、尙立派に人に傳染する力のある黴菌があると云ふことを、證明されました。それ位でありますから若し皆樣の中、轉居でもなさると云ふやうな時は、前に住つて居つた人は結核であつたか、なかつたかと云ふことも調べて、万一結核の人が住つて居つたのならば、其室は十分に消毒してお這入り

にならなければいけませぬ。西洋の婦人は能く道を歩きまする時に、長い裾を引摺つて、地面を摩つて歩くのが通例でありますが、是は隨分危險な事で、塵埃などが着物の裾に附着して、それが爲に傳染の媒介を致すことがあらうと思ひます。幸ひ日本の御婦人方は、其樣な危險がないだけ非常な幸福な國へ御產れになつたと思ひます。

さうして見ますると、空氣の中には始終黴菌が塵埃と一緒になつて居るから、吾々が呼吸する每に此黴菌を吸入して、誰れでも皆肺病に罹らなければならぬ筈であります、然し誰れでも皆其病氣に罹るとはきまらぬと云ふのは、人間には自ら之を豫防する防禦器がございまして、始終それを防いで居るのであります。其防禦器と申しまするものは何かと云ふと氣管枝、氣管喉頭及び鼻腔等には粘膜と名付けまする極く薄き被ひ物がありまして之れに何百万とも數の知れさる極く細かな、細い針のやうな毛の如き裝置かあります。之を纖毛と稱へます、此纖毛と云ふものは、常に下の方から上の方へ向いて運動して、塵埃とか黴菌とか云ふ異物が這入りますると、幾ら細微なものでも外部へ出すと云ふ運動をして居るのであります。故に此の道に病のない人は、此纖毛が銳敏に運動を致して居りますから、如何なるものを吸入いたしても、悉く拂出されて仕舞うのであります。又肺の力が非常に强く、健全でありましたならば、縱令黴菌が肺の中へ這入りましても、健全なる處には黴菌が何うしても住うことが出來ずして、自ら死滅して仕舞ふことがございますから、喉頭、氣管、氣管支、肺に總て病氣がなく健全である間は、一方は塵埃を外部に送り出し、一方は黴菌が這入つても、肺が健全であるから、それを撲滅すると云ふ次第であります。故に吾々は肺が健全である間は病氣に罹らぬと安心して居るのであります。故に若し喉頭でも、氣管支でも、總て呼吸器に少しでも故障のあります時は、一時も速かに醫者の處へ往つて健全にして置かぬと、其抵抗力が弱くなつて、それが

爲に外部から這入つた病毒が勢を得て、遂に重患になるやうになりますから十分に注意しなければなりませぬ。……

次に飲食物から這入つて參りまするのは、主に牛乳と牛肉とでございまするか、牛乳の中に病毒、即ち結核黴菌が這入つて居りまするのは、結核に罹つた牛の乳であります。今日牛の結核に就ては、檢査法常にきびしくなつて居りまして、僅かに牛に病氣がありましても、それを撲殺して豫防して居りますから、唯今の所では大抵牛乳にはさう云ふやうな危險はないと云つて差支へはない筈であります。併し牛には結核菌はないと致しましても、牛乳を搾取する時に不潔のものが這入らないとも限りませぬから、兎に角十分に檢査することが必要であります。此頃或る學者の說に依れば、牛の結核は人間には傳染しないと云ふ說を唱へる人がありますけれども、是は少し六ケしい醫學上の方に亘りますから此處では申上げる必要もありませぬ、何れに致しましても、牛に結核があるなしに拘らず十分に消毒して飲む方が安全であらうと思ひます。牛肉も其肉の中には結核菌が這入つて居ないと唱へて居る人がありますけれども、併し肉の中にも脈管もありますれば淋巴管もありまするので、それ等に依つて人間の身體の中に這入ることもありますから、牛肉なども十分に熟煮して、決して生肉などを食べないやうにするのが安全の策であります。それから西洋では子供に能く接吻などをしまして、それから傳染することもありますが、日本に於ては、それ等の習慣がありませぬから、是等の傳染は先づ少なからうと思ひます。

又皮膚の傷から這入ることがあります、即ち皮膚結核と申し一名狼瘡と申します。是は皮膚に出來る病でございます、日本には割合に少いやうですが、外國には隨分澤山に見えます。現に私が下宿して居りました家で或時親類の人達が七八人集つて晩餐を共にしたことがありましたが、其時に一婦人が、私は狼瘡を病んだが、此通り治つたと云ふて、自慢らし

く話をしたこともございました。併し皮膚結核は、之を捨て置かず早く手術すれば治りますから肺に起るもの丶やうに危險はなからうと思ひます又俗に瘰癧と稱へて、淋巴線の結核其他前に申しました通り腸結核もあり、又腎臟に起る腎臟結核と云ふものも隨分あります。併し何れにしても、肺に來るのが一番多い、何故多いかと申しますれば、それは最前から申しました通り、痰の中に結核黴菌か混してあつて、之れが處々方々に散らかつて居りますから、塵埃と一緒に不知不識の間に吸入する爲めであります。

今茲に結核患者の死亡數の多いと云ふことを證明する爲に、一寸統計を申上げます。此統計は獨逸の統計で千八百九十五年、丁度今から八年程前に調べたものであります。此時の調べに依れば四百四十四万五千七百十九人の人口中、死亡した人は百〇八万八千六百二十三人、全體の人口から死亡した比例を見ますると、一千人に就て二十二人の割合になつて居ります。結核死亡數は人口四百四十四万五千七百十九人の中て十二万三千九百〇四人肺結核に罹つて、死亡した者は十一万五千〇卅四人てあります、今千人て比例して見ますると、肺結核てない色々の結核て死亡した者は千人に就て二人半ばかり、肺結核で死亡した者は、千人中二人二三と云ふ比例てあります。此の如く死亡の統計を見ますると、肺結核の爲に斃れたる者が非常に多くて、全世界死亡者の六分の一乃至七分の一を占むると云つても差支へないのてあります。此樣に澤山死亡者のある病氣てございますから、どうしても是は各自豫防して行かなければならぬのてございますが、併し前にお話申しましたやうに、人間の身體には自然に防禦器が御座ひまして、是て病毒を防ぎ或は呼吸器が强かつたならば、黴菌が生息することが出來ず、遂に自ら死滅して仕舞ふ、又不幸にして結核に罹つたとしましても、必ず死するに限つたものてない、立派に治ることがあります。それは何うして證據立てるかと申しまする

と、今普通の病氣の爲に、則ち肺結核以外の病氣で死んだ人を解剖して見ますると、其解剖した病人の中凡そ半數位は結核に罹つて居る、併し其人達は生きて居る間決して結核の容態もなく、又外部にも現はれなかつたのであります、又現はれた所が餘り僅かで、殆ど氣に留めなかつたものであるかは分りませんけれども、兎に角他の病氣で死亡した患者を解剖して、十分に調べて見まするど、肺に結核を起して治つた瘢痕を殘してあると云ふ事實を發見したのです。ホルランゲルと云ふ人が調べたのに依りまするど平均百人中四十人から五十人肺結核の治つた痕跡を認めたと云ひ、又バナウと云ふ人は百人中六十人は治つた痕跡が肺の中にあると云ふて居ります。さう致しますると肺病と云ふものは、決して治らぬものではない、治ると云ふことは解剖上に現はれた事實であります。其治ると云ふことは前に三宅先生のお話の如く、藥ばかり力にして、何でも病氣は藥を服めば治ると思ふのは大きな間違、甚だ考の足りないことゝ思ひます。此結核も藥のみで治るのでなく、矢張り攝生を十分にするとか、或は空氣の關係等もあるのでございます。

そこで既に申上げました通りて肺結核はヂリ／＼と知らない間に傳播する傳染病で非常に怖い病氣であります、而して之れを豫防するには、各自が其傳染の徑路を辨へて、それを實行することにしなければなりませぬ。若し又病氣に罹つた時分には、酷くならぬ前に養生をして行けば治るやうになります。さう致しまするど茲に其療養所と云ふものが必要になつて來るのであります。どうしても此不潔なる空氣のある大都會の中などは、極く清潔なる空氣、最も愉快なる空氣のある山の上の住居などから比べて見ますれば、甚だ惡いと云ふことは明かな事實でございます。故に一は肺病の傳染するのを防ぐ爲めの目的と、一は肺病になつて居る人達の爲に療養するのを目的として、都會を離れた、空氣の清潔なる所に一の療養所を拵へ、其中で療養するのが必要であり

ます。

デ此療養所の沿革を一通りお話致しまするが、先きにも申上げました通り、肺病と云ふものは二千年も前に歐羅巴に於ては其所在を知つて居りまして其治療法はと申しますと成べく養ひになる滋養物を食べて、不潔の空氣の所から、新鮮の空氣の所へ行き又一つの山から他の方へ行つて、生活法を變へるを目的として居りました。其後四百年程經てプリニユースと云ふ人が、肺病には光線療法と云ふて、大陽の光線を應用して療養することを發明し、其他蒼々として居る深林の中で療治をするのが宜いと、唱へて居りました。其後今を去ること殆ど二百年前ヘルモンド、ウイルスと云ふ人等は、温かい山上の空氣が宜いと、唱へました。又時々空氣を變へて轉地するが宜いと、唱へた人もありました。併し此時代には肺病と云ふものは、結核黴菌で起ると云ふことは知らないでありましたが、其の傳染すると云ふ事は知て居りました。而して其療治法は、皆空氣の宜い山上へ送つたりして、二千年も前から此法を續けて居りました。段々其結果能く治ると云ふ事が知れて來ました、デ今から約五十二年前、千八百五十四年に、獨逸に初めて完全した隔離療養所が出來ました、是はブレーメルと云ふ人が拵へたので、獨逸の北東の方でシュレヂエンと云ふ處にギヨルベルスドルフと云ふ村がある、其村に建てたのでございます。其次は千八百七十三年ザクセン國のライボルスグリユンと云ふ處に、ドツトーベルと云ふ人が建てました。其次に千八百七十四年今を去ること三十二年前フランクフルトと云ふ都會の近傍に療養所を建てた、それから千八百七十八年に「ハウフエ」と云ふ人が、バーデン國シユワルツワルド山中の「シントブラシエン」と云ふ處の療養所、千八百八十八年にビエツクラーと云ふ人か、ギヨルベルスドルフの近傍に建てたもの、千八百九十年に「シヨンベルグ」と云ふ處に「リヨンブレルー氏の療養所、千八百九十二年には「ホーヘンメツフ」と云ふ人の建せた療養所。

それから千八百九十四年、丁度九年前タレーヘンがタトには「ランデレル」と云ふ人が建てた療養所等で、近々五十三年以來續々療養所が建ちました。其他の小い療養所を數へますれば何十と云ふ程でございます、今此有名なる療養所二三の寫眞を持つて參りましたから御覽に入れます、是はザクセン國の「ライポルスグリユン」の療養所でございます（寫眞を示す）立派なることは非常なもので、極く幽邃なる山上に建てられてあつて十分に脂肪に富んだ食物を供給し、新鮮なる牛乳を多く與へ一方では理學的療法體操或は呼吸運動と水治法杯を致します、理學的の療法で心臟の動きを大變強くしましたり、それから身體の新陳代謝を盛に致しまして、其活動力を強める、殊に空氣の中の酸素の多い、森林の高い處にはオゾームと云ふものがある、其オゾームと云ふものは酸素原子の三つ集つたもの（O^3）で、極く濃厚の酸素でございます、さう云ふものが森林の高い處に出るもので、それを吸入するのが大變効能のある

と云ふ所より、此療養所を建てたのでございます、今日までの目的は詰り肺病を療治すると云ふ、一の目的で此隔離所が出來たのでございます、其結果はどうかと云ふと、非常に好い結果で御座りまして隨分惡くなつた人でも、斯う云ふ空氣の良い處へ行つて、十分に滋養物を食べて療養致しますれば、殆ど元の通りになつて仕舞ふのです、是は今日療養所の統計を見ても明かなのでございます。此療養所と云ふものは唯々肺病に罹つた人に幸福を與へる而巳ならず、世界全般の健康の人に向つて、病氣を起させないやうにすると云ふ一の助けにもなり。即ち豫防法としても、又療治法としても考へることも出來ますから、どうかして此療養所の設立を、早晩日本でも實行しなければならないことであります。私の見ました療養所は只今御覽の寫眞の中にも御座りますが「フワルケンスタイン」と云ふ所に在りまして、デットワイレルと云ふ人が拵へましたので御座ります。今此のお話を申し上ますが此「フッルケ

ンスクイン」の療養所は、今から一寸五十年前プレーメル氏が拵へました療養所に療養して居つた患者の結果が宜いと云ふ所から、世間の好評を受けて出來ましたのでありまして、フワルケンスタインのデツトワイル氏療養所と云へば隨分有名なものであります。是は千八百七十四年即ち今を去ること三十二年前に初めて出來たのでありまするが、其組織はフランクフルトと申す、獨逸の殆ど中央にありまする大都會——工業地でありまするが、其地の富豪の人達が寄集つて株式組織にして拵へたのでございます。デ此デットワイレルと云ふ人は、其處の醫師の相談役となり、其他醫師にはドクトル、ヘッスと云ふ人が居りまして、其他に三人居ります。其土地は海面上四百米突、日本の尺で約千三百二十尺の高い處でございます。隨分不便な處ではございまするが。私の參りました道は今申上げました、フランクフルトから滊車に乘りまして、一時間ばかりてクロンベルグと云ふ停車場に着きました、其處から此「フワルケンスタイン」へは山道を登るのです、併し此「クローンベルグ」からフワルケンスタイン迄往復する乘合馬車が御座りまして、其馬車に乘りますれば、一時間半ばかりで到着致します。其道路は隨分惡い所もありますが、先づ大部分は好く拵へてありまして、其間には森の中を通つたり、致しましてなかなか景色の好い處などがありました。私の參りましたのは、丁度夏の暑い時てありましたが、實に涼しく心地好く感じました。到着いたしまして前面から療養所を見ますると、非常な宏大なもので、長さ殆んど三四丁もあるかと思ふ位、て其眞中には本館がありまして、兩方に羽翼を張つたやうになつて建物が續いてあります。其羽翼の兩方に又一個づゝの建物がございます。玄關を這入りますると其東側に食堂がございます、其食堂はなか〳〵大きなものでありまして、長さ二十四米突(十三間半)幅十米突(五間半)ありまして二百人程一緒に食事をすることが出來るのでございます。それから本館の南側には浴

室がありまして其内には人工の瀑布が出來て居りまして、霧の如くに水が迸出する仕掛にもなつてあります。其隣りが顯微鏡室、黴菌などを檢査するのでございます。藥局は其隣りにありまして、其藥局の二階が醫師の居る室になつてあります。本館の眞中、玄關の突當りに遊戯室がございます、遊戯室は隨分廣うございまして、色々の遊戯が出來るやうになつて居ります、其一方は音樂室になつて居つて、ピヤノヴアイオリンの備があります。其他種々の樂器がありますから何時でも音樂を奏することが出來ます。其隣が讀書室でございます。又玉突室も併てありますから奏樂をしたい者は奏樂をし、玉突をしたいものは玉突をすると云ふやうになつて居る。それから圖書室もありまして、獨逸、佛蘭西、英吉利等の書物が殆ど二千五百餘冊もあります。又一方の端は事務室、郵便電信局等まで備はつてあります、素より非常な不便な處に拵へた療養所でありますから、以前は人家などは少なかつた、でしよふが此療養所が出來てから初めて多くの人が住むやうになつて來たのでございますが、又療養所の中に郵便電信局の備があるのでございます。それから前に御話致しました羽翼になつて居る兩方に一個づゝある建物の中へ這入りますると、後ろの方は長廊下で本館と續いて居りまして、其廊下より戸外を見ますれば、南東に向つて眺望も宜しく、建物の後ろは鬱蒼としたる、タウヌスと云ふ有名な連山で北と西は圍繞されて居るのです。詰り開いて居る處は南と東の一部だけでございます、其兩方にある建物の廊下には百四十程の安坐椅子が備へてありまして、此椅子に病人が坐つて居つて空氣を吸つて居るので御座ります。用水は何處から來るかと申しますと、其直ぐ上の方にアルトキユーニツヒと云ふ山がありまして、其處から鐵管で導いて、之を十分に濾過して用ふるのです。下水は何うしてあるかと云へば、誠に注意が行屆いて居りまして、便所、臺所等から出ます下水は、其處から下の山に送る、下の山には小舍があ

りまして、其處に大きな溜がございます、其溜が四つに分れて流れ出る樣になつて次に網がありまして、汚水を漉すやうになつて居る其漉した水が一緒に集まつて、一ツは森の內へ入り、一ツは牧塲へ送ると云ふやうになつて居ります、其溜では消毒藥を用ひて、化學的に分解させると云ふて居ります、何う云ふ消毒藥を用ふるか知りませぬが、消毒して、それから前の四つに分れて漉されて右二ヶ所に流すやうにしてあります。それから本館の後ろの方に一の小屋がございます、それには牛と馬が飼つてございます。私の參りました時には乳牛が六頭しか居りませんでしたが、元來十四頭を飼養して居ると云ふて居ります、其乳牛には皆ツベルクリンを注射して、確かに結核でないと云ふことを確かめた上連れて來る、而も其牛は每年强壯なものを取換へると云ふて居りました。それ故病人に飮ませる牛乳は、少しも煮ないで、搾つたまゝ直ぐに飮ませることになつて居る、何となれば牛に少しも病氣がないと云ふことが證明されてあるのでございますから、安心して飮めます。全體牛乳は搾取した其儘のを直ぐに飮めば一層効能も多くありますから、是に越したことはございませぬけれども、平生吾々が飮む牛乳は、何う云ふ風にして、何う云ふ牛から搾るのだか分りませぬから、一度は十分に煮沸しないと危險でございます。事既に申上ました通りでありますそれから庭が廣うございまして、前にお話した安全椅子が置いてある。つき當りの前面には大きな木が澤山植えてあり、庭には芝が植えてある。其樹木は矢張り松、杉、杜松等が蒼々として居りまして、空氣が宜しうございますから、都會から行きますると心持が變る位ひ氣分が良くなります。丁度私が參りました時には、入院患者が百〇五名居りました、百五名居りましてはもう滿員になつて居りますから謝絶して居ります、が多數の患者を倚ほ近處の家に世話をして住はしてあると云つて、醫師が話して居りました。デ此療養所が出來た以來、其近傍に別莊などが出來まし

て、肺の惡い人などは其處へ來て、同じやうな方法で身體の療養をして居ります。氣候は獨逸の中央氣候と大した差がございませぬから、冬は隨分寒いのでございますが、空氣が變換して氣候の激變はないのでございます。食事は何うして居るかと申しますと、午前則ち朝食は牛乳、珈琲、チヨコレート、カヽオ、麵包、牛酪等で、是は第一朝食、それから第二回目の朝食は十時か十一時頃で、此時には牛乳に麵包、或は極く濃厚の肉汁などを與へます。晝食は十二時半か一時、此時はなか〳〵御馳走を致します、私の參りましたのが丁度一時頃であつたと思ひます、其時が晝食であつて、私も食事の馳走になりました料理は一々名前も覺えませぬが、濃厚の肉汁の外四品か五品出ました。食後珈琲を出すのが通常です。其食事を致しますのには、前申上げました大きな食堂で、百五人病人と、醫師、看護婦等殆ど二百人位一度に致すのでございます。そこで丁度私は案內をして呉れた醫者と並んで居りましたから、私はどうも御馳走は有難うございますが、此樣に大勢の肺病の方々と一緒に食事を致すのは困る。傳染する危險はないかと尋ねました所が、其處が此療養所の得意とする所であるから、是非貴下も一緒に模樣を見て食事して呉れろと云ふので、一緒に食べました、それは決して危險のことはない、道理で食後は食器類例之はナイフでもホークでも、皿でも總て一度の食事每に一回使用した者は必ず蒸氣消毒をするのであるから決して危險のないと云ふことを說明して呉れました、其時案內して呉れた人はギジオンセンと云ふ人で、大變心易くなりました、同氏の談話中昨年も一人日本人が來て御案內をした、又何年前であつたか日本のプリンスが御出でになつたと云ふて居りました。プリンスと云へば皇族でありますが、何方が御出でになつたのであるか私は存じませぬが、非常に名譽らしく申されました。それ程の處でございますから此フ「ワルケンスタイン」の療養所は獨逸に於ても有名な所でございます事は明らかで御座りま

す。斯う云ふ風の療養所がありまする以上は、縦令僅か位肺がわるいとても、さう云ふ處へ行けば治りも致しまするし、又健康者――吾々が參りましても滿足致す位ひでありまして、治療法と云ひ豫防法と云ひ、總てが完全して居りますから、愉快なる生活が出來、又病人も治ると云ふこともあります。此幸福なる、必要なる療養所が、今日我が日本にないのは、如何にも殘念なことゝ私は思ひます、併し今言ひ出したからと云ふて、差當り致方もないのでございますから、皆樣方が結核傳染の道を御承知になつて、それを防ぐことが必要であります、それで萬一此病に罹つて時に、斯う云ふ療養所に避けるならば、一は他に對する傳染を防ぎ、又一は病氣自個を癒する機會になります。恰も虎列刺や伯斯篤を果斷の處置を爲し、即ち交通を遮斷するとか、家を燒却するとか云ふことをしなくとも、病氣に罹つたならば、他人から隔離しろとか、消毒しろとか言はれない中に、自分から、斯う云ふ隔離療養所に參りますのは理の當然でそして豫防及治療の目的を逐する事になります故に併せて隔離療養所のお話を申上げましたのでございます。

景色よき園に折〳〵立出て〻
日に二三度は運動をせよ

寄書

●流行性脳脊髓膜炎（通俗的）

醫學士　竹中成憲君

交通機關の發達と一方に於ては醫學の進歩といはむよりも寧ろ醫師の進歩とに因り追々新しき病名も素人諸君の耳を侵す事となれり此頃此病名八ヶ間敷な

れりといへども從來とても各地方に本病のポツ〳〵現出せしは事實なるが今回は江戸の芳原といふ點より案外世間の話種となれるに過ぎずソレも未だ眞の本病なるや或は他の疾病なるや確定せざる有樣なれども殆んど眞性のものとして疑ふべからざるに似たりといふ殊に神奈川縣横濱、靜岡縣濱松在等にも發生せりと傳ふ警視廳は不取敢左の廳令を發せり

警視廳令第二十八號（明治三十六年十月四日）醫師流行性腦脊髓膜炎若くは該症の疑ある患者を診斷又は其死體を檢案したるときは十二時間以内に患者若しくは死體所在地警察官署巡査派出所又は巡査駐在所に屆出づべし

前項の患者若くは死者ありたる家に於ては警察官吏又は當該吏員の指示を受く患者若くは死體の處置及消毒方法を施行すべし本令に違背したるものは科料に處す本令は發布の日より施行す

西洋に於ては（一八三七年）卽天保八年以來醫界に八ケ間敷なり行政的に屆出を爲さしむる國あり本令も至當の事たり

地方に於ても當分同一方針に因り病の消長を覘ふべきなり

由て左に本病に關する事を通俗的に記して諸君に報導するは蓋し徒勞にあらざるべし

【原因】　凡そ傳染病なるものは下等植物に原因するものにして之を「バクテリヤ」「細菌」又は「黴菌」といふ解り易くいへば小さき「虫」なり本病も亦之に外ならずワイヒセルバウム、イエーゲルの兩氏本病の細菌を發見せるに依りて氏等に因みて本菌を兩氏の「重複菌」又「腦膜球菌」と稱す患者の腰部より細き管針を脊髓膜の中に刺入し之より得たる水の中に本菌を發見するを得るものなり之を細菌學者に於て確めたれば本病たる事明なり

然しながら本病の「徵候」を參照すれば敢て本虫を見ずとも本病を診定する事難きにあらず卽ち左の如し

【徵候】　俄然大惡寒（さむけ）、體溫四十度に昇り、頭痛、嘔吐、特に著明なるは項部（ぼんのくぼ）の硬くなりて攣る事是なり此部を壓すれば痛を訴ふ其他背痛、腰痛、四肢亦痛あり又特に著しきは全身皮膚の知覺過敏となる事にして皮膚に注射でも爲せば患

者叫ぶものとす小便つまりする事あり其他譫語（たわこと）、搐搦（躰のつる事）、瞳孔（眼のひとみ）ひらく事、半身不隨、兩側麻痺（中氣のやうになりて手足きかぬ事）、盲目、耳病、口の周圍に疹（でき〻の）生ず（其他醫にあらざれば發見し難き徵候あり）本病は非衛生的の場所に多人數密居するときは發し易く多くは小兒及び若者にして三十才以上のものには稍〻稀なり

容躰は右の如し而して本病は流行の始には頗る惡性にして百人中三十人乃至五十人は死するも漸々勢力弱くなるものなり甚きは數時間にして旣に鬼籍に上る數週間に涉るものには生命丈は助かるべし

要　括

右の如く恐ろしき病なるがゆへに世人も騷ぐし當局者も之を不問に措く事能はざるなり病を確定する爲めに時として原因の部に記したるが如く腰部より水を採りて檢査するの必要あるものにして此法たるや醫の之を注意して行ふときは少しも害なきものなるが故へに必要なる場合には患者たるもの之を甘諾するの覺悟なかるべからず

●結核慈善病院を創立せよ

竹中學士

結核の蔓延愈々甚しく西洋の統計に據れば七人に壹人は結核の爲に斃る日本癩病多しといへとも其數や人口に比して微々たるのみ此結核の壹人對七人は少くも西洋に於ける事實にして本邦亦結核日に月に多きを以て見れば人口五千萬の帝國は凡七百萬人の結核患者を算出する道理にして帝國は世界の最大都會たるロンドンよりも大なる市を結核患者のみを以て形成するを得べし否しつゝあるなり是れ東京市を凡四倍するものなる事を思はゞ誰か寒心せざるものあらむ而して人は癩病の爲には不完全ながら種々なる設備を計畫し獨、結核の爲には顧るものなし日本の癩病は幸に傳染力微弱なるに尙且然り是結核の傳染

著明なる事實を知らざりしに因るといへども予の考に因れば最も同胞の感情を動かすものは癩病患者の容貌異常にして素人の之に同情を表し易きに因る結核は外觀却て我國の意味に於て美貌に屬するものに多く內臟の變化と外見と一致せざるがゆへに素人は後者の恐ろしきを知らざるなり

試に「狼瘡」患者を示し是即皮膚の結核にして云はば皮膚の肺病なりと說明せば玆に始めて結核の恐るべきを解得すべし

「ペスト」は實に萬病中最も危險なるものにして之に對する目下の熱心は素より必要なり然れども急性のものゝ害は一過性なり結核の如き慢性傳染病は其害や子孫に及ぶものなり人、梅毒を恐るゝも梅毒は必治の疾病にあらずや癩病は富者と最貧者に在り結核は社會を通じて存し我國に於ては外國に反し上流に結核多きと同時に貧者にも亦決して少數にあらず否西洋に於ける事實に鑑むれば文明と共に生計困難に陷り不淨空氣中に於ける勞働と蟄居は免るべからず貧者に結核の增加を見る火を見るよりも明なり

癩病患者を見よ彼は容貌醜なりといへども敢て苦痛著しからず敢て多數の滋養品を求むるにあらず敢て多數の藥劑を必要とするにあらず故に四肢斷絕して尙能く逍遙して人の憐を乞ふ事を得之に反して陰暗陋矮の屋內に呻吟する所の結核患者を見よ彼は實に結核の原因の上に効あるべき丸劑と水劑を常用せざるべからざるの外、咳嗽の爲に鎭咳藥、咯血の爲に止血藥、夜汗の爲に止汗藥、咽喉痛の爲に止痛藥、其他吸入劑、咯痰消毒劑加之、米、牛乳、鷄卵、鳥肉、牛肉を買はざるべからず且醫師の診察料、車代の附帶するあり而して其日數や短きも年餘に涉る

諸君、貧者は如何にして之に耐ゆべき乎富者といへども結核程費用を要するものなし一ヶ月二百圓を以ては未だ十分なる療養を加ふる能はず一家に二三の結核患者を出すとせば巨大の財も之を盡すべし

貧しき結核患者に善良なる病室を與ふるは是取りも直さず富者より危險を遠ざくるの一法にして貧者も

幸なりといへども富者の幸福は之に倍するにあらずや

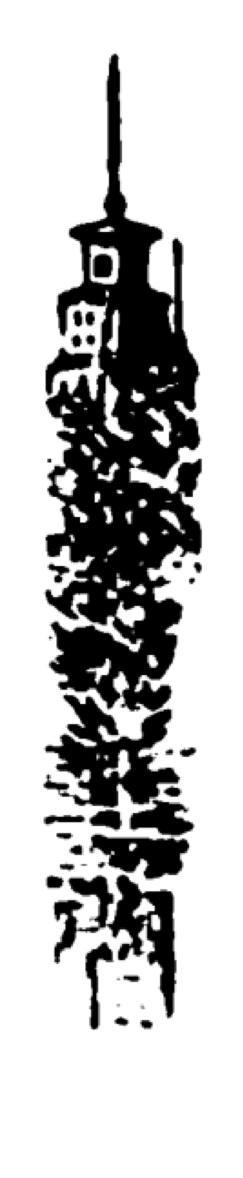
果して然らば富者は宜しく財を割きて結核慈善病院を設立すべきなり社會制度の必要事項なり

名稱亦注意を要す今假に「結核慈善病院」といふもこは意味にして稱呼にあらず

「呼吸器病養生園」とか「慰療園」とか「救療園」とか追て考ふる事とすべし獨逸には「人民養生園」(フォルクス、サナトーリウム)又は「人民治療園」(フォルクス、パイル、スタット)の如き名あり

流石は英國なり、英國は天保十二年(一八四一年)既にロンドンにブロンプトン病院なるものを設けり是實に予のいう所のものたり其他「肺結核國民病院」(ナショナール、ホスピタル、フォアー、コンサンプション)の如き名稱目的明瞭なるものあり

爾他の外國亦續々之に倣ひつゝあり東洋の文明國以て如何となす傳染病撲滅は平時の戰爭なり(完)



○婦人と子供

醫學士　唐澤光德

●育兒院

日ましにお寒くなつてまゐりました、春庭大人が「しぐれゆくたゞ一村のうきぐもに、いく里人が袖ぬらすらむ」(後鈴屋集)とよまれましたのも、ちようど今頃の事でござりましよう、比較的世の上流に立つてゐらるゝ、此會の會員諸姉などには、あまり御察しもござりますまいが、私共が日常外來患者を診察致します時、また施療患者に接します時、其他散歩など致して其處此處を一種の眼光で觀察致しますと、自分の職業のせいか、貧民の子程なか〳〵にあはれなものはござりません樣に考へます。

多くの患者の中でも殊に私共の感に堪へませぬのは、小兒萎縮と申す病にかゝつてゐる病兒でござります、此病氣は病氣には違ひはありませんが、むし

ろ發育の惡いと云ふ方が至當な、乳不足とか、牛乳等の營養品が不良てある爲とか、養育法の不完全とかに因つて起つてまゐるので、生後一年位もたつ兒が、生れたこの小供位の躰量しかなく、やせて、色澤も惡るく、乳の呑み方も惡るいと云ふ樣な兒童をさして申します。

所がこの樣な兒童を治療する、いなむしろ育てゝまゐりますには、第一充分によき食料を撰ばせ第二に充分に溫暖に保たせ、第三に完全な養育法をとらせるのが本旨てございます、もし幸にかゝる小兒萎縮なる病が富裕な家の小兒にばかりございますのならば、第一の食料例へば乳とか牛乳とかも充分に、申し分なく替へさせる事も出來ますし、第二の溫度も保たせられまするし、また第三の養育法も、どうにても致させられますが、不幸にも此病にかゝる小兒の多くは貧窮な家の小兒に多いのでございます。

第一の食料、それは牛乳に致せ、コンデンスミルクに致せ、小兒の事でございますから、たんとはいりませぬが、もしよくのむ兒になりますと一日に五合位ものみますから、一合六錢とした所で一月に九圓はいるし、二合位しかのまない小兒もて三四圓は此食料の費用にいります譯て、一日五拾錢位迄しかとれない貧民の家庭にはとても實行致させにくい事がござります、しかるに母の乳の惡るい爲とか、從來用ゐてをつた牛乳が惡いとか、「コンデンスミルク」の安物を買つてをつた爲とかて、此育ちの惡るくなつた病を起したものと診斷した折には是非共之等の病の原因である事柄をやめさせて、適當なよき食料に替へる樣にと、醫師としては命令しなければならなくなります。

勿論親の子に對する慈愛の心の深さには、貧富の相違はございません、私共の眼から見ますると、却つて貧しきものゝ方に深いものがある位て、隨分の遠方、二里位もある所から未明に自ら兒を背負ふて來て、診察を受けに來るものもございますが、これ等

のものに食料の改良を命じて、もつとよき乳を、もつとよき舶來の「コンデンスミルク」をと申しますと、中には面前で「私共にはとてもつゞきませんから」と云つて矢張り安い「コンデンスミルク」を用ゐて居るのもござりますし、またはだまつてしほ〳〵と歸つてゆくのもあり、つまりあゝこうやれば充分に育つのではあるがと思ひながら、其人の狀况を察して、みす〳〵不完全な事しか（醫師としては完全に申しましても）實際に行はれてゐない事が少くはござりません、第二の兒童を溫暖に保たせる事——衣服其他、第三の養育法——家庭の事などはあまりにくだ〳〵しうなりますから申しませんが、いづれも之に準じて御考へになる事が出來ましよう

あゝ、ほしく天賦の資格を以て生れ出でた頑是ない兒童が、單に親の不如意であると云ふ點から、みす〳〵生存し得べき資格を具へて此世に生れながら、生きながらへる事の出來ぬと云ふのはなんとあはれな譯ではござりますまいか

幸にも各國此點に注意致しまして、西洋でが單に育兒院ばかりでなく、牛乳の施與所なども多數にこしらえてあるそうですし、我國でも、皇后陛下の下に此會の鍋島夫人、濱尾夫人及弘田博士などの創立せられたその他岡山孤兒院などがござりますが、なほ〳〵此會の會員諸姉が此點に御注意あらせられて、自己の衛生の爲のみではなく婦人としゝ大に關係深き兒童の保育にどし〳〵御盡力あらむ事を希望致します

●箴　言

久しく行き、久しく坐し、久しく立ち、久しく臥し、久しく語るべからず。是勞働ひさしければ、氣へる。又安逸ひさしければ、氣ふさがる。氣へるとふさがるとは、共に身の害なり





衛生雜話

醫學士　石原　喜久太郎

●福岡醫科大學附屬醫院

先づ所在地に就て一寸御話申します、元の縣立病院が醫科大學の附屬醫院となりましたのですが、其所在地は博多の千代の松原のほとりで、白沙青松の間です、醫院の後は、松林の中を一丁餘りゆけば直ぐに海岸に出られます、能くは存じませんが、一寸考へて見ても、春や秋や冬の時節に、呼吸器病の患者等の爲めには大層よさそうな所かと見受けました、乍併私はほんに一寸見た許りで、季候のことや、氣壓のことなどを調べたのではありませんから、確かなことは申されません、醫院の直ぐ隣りの土地で、やはり松林の中に、醫科大學の教室の一部分が成工してゐました、此九月から醫科大學一年生の授業を開始せらるゝ筈でありました、

●佐賀の山奧

私は豫て調べ度いと考ッてゐた事がありまして、佐賀縣の小城町と申す所に暫く滯在致しました、と云ふのは、此町から二里許り隔てゝ、北多久村と云ふ村がある、其村内の大字多久原の小字岸川と申す山奧に、昨年惡疫が這入りこんだので、其節、此處から研究材料を送ッて貰へましたから、それに就て少々調べたいことがあッた爲めであります、小城町には、小城郡の郡役所がありますゆゑ、公用上郡役所の諸君に大層御盡力を仰ぎ、それからして、北多久村の役場の御方にも御厄介になり、初めて私の目的を達し得たのでした、小城町から北多久村役場所在地の多久原迄は車道で二里許りあッて、此處から、約一里、山奧に入れば、岸川と云ふ小字がある、其戶數百軒許りもあります、此岸川と云ふ所は、佐賀縣でも、隨分、片田舍だそふで、佐賀縣出身の友人

などが郷國の歌を歌い出すのを聞きますると、何時も「岸川萬五郎さんな、腰にてんてッさげて」云々と云ふて如何にも此處か片田舍てあると云ふことを言ひ表はす意味を含んでゐるとの事です、所で、此岸川の其又一部分に、日燒と申す小部落があッて、それは岸川の本道と別かれて、急な坂を二三丁許り山に登れる小道に沿ふて八軒許りの人家があるのです、其坂の峻しい事は履を穿いては、うッかり登れぬ位いてす、八軒の家の多數は、山の上方から流れて來る溪水に沿ふて少しの平地を開いて建てゝおります、昨年は此八軒が八軒に皆惡疫がやッて來たので、一家で何人も同じ枕に病んだと申すことてす流行の節には、こんな山中ゑ知事さんや、警部長さんや、内務省の出張官吏のお方なども、度々お出てになッたそうてす、所て不思議にも岸川在ては此日燒ばかりに惡疫があッて、他には出なかッたので、否な、出ない内に、防ぎ止めたのてありましたが、一時は、岸川全躰大變に恐慌を來し、何處ても能くあることとてすが、醫者や、警察官を怨みて、騷動を惹き起さんとしたのを、幸に人望家が壓服したそうです、岸川の住民は大抵勞働者て、日雇の仕事人として近村に雇はれ出て、日中働いて、夕方に歸ると云ふやうなのが大多數ぢやそうです、小供や、老衰人のほかは男女を問はず皆そうだと申します、と云ふのは山奥である爲めに、田や畠が乏しいからと聞き及びました、此處は九州の内てすけれども、山の中てある爲めに、冬は雪も隨分積るそうです、

私は、ある熱い日の午後、小城町の郡役所のお方一人と、それから、醫者の方一人と、三人連で多久原の役場に參りまして、目指す役場員のお方は退出後てしたが、態々、又出てお出てになり、色々と調査の事を依賴致したれば、早速承諾になりまして書類等を調べて呉れられました、次に、日燒に行きて實地の調べをするに就け同行するとをも承諾致され、先以て、空腹ては仕事が出來ないから、急に晩食を炊がす等の準備て、色々、時間が立ちまして、扨て、

是から參らうと云ふ頃は、はや、夕方の六時頃て、提灯をも用意致し同行四人て岸川に向へました、道は、だんだん上り道て、しばらく行けば川に出遇へ其岸を傳ふてゆくのです、川の流れの綺麗て、水が玲瓏透明て、實に掬んて飲み度くなる位てす、然るに、昨年夏、惡疫があッた時分には、此川に病毒を投棄したそうて、非常に危險なる事であッたから、石油を流して一切使用を禁じたとの事てす、石油と云ふものはこんな場合に、大變便利て、下流に流れゆきても、尙ほ、油の光りが浮かんてゐて、誰にても目に付きますから、使用することが出來なくなるのてあります、さて、此の川に沿ふて、上る間に土橋を渡ッたり、右左に水車ののどかに、山中曆日もなさそうに、輪轉してゐるのを眺め、或は牛飼の小女に遇ふなど、鄙の光景に珍らしき感を興しました、ふと眼に入りましたのは、路傍に小さなる、堀ッ立て小屋があッて、其内に男女がガヤ〳〵騷いてゐることが知れました、何かと思ッて熟視致しますれば、之は浴場てありまして、此邊の村の人々が一日の仕事を終え、今や沐浴してゐるのてあッて、同行の役場のお方の話に、こゝらは、何軒かの家々が組合ッて、丁度各の家から、等距離の道側に、斯樣なる共同浴場を設けて居るとの事てありました、成程土地相當なる便法なりと感じましたのてあります、多久原から、地面がだん〳〵に上ッてゐき、今の川の水源に近きあたりが岸川の本宿て、其處は、餘程土地が高いのてす、前に述べた、日燒と云ふ所は、岸川本宿より三町許り手前てすが、私共が其處に到着したのは、午後の七時頃て、川の右岸に二三軒の家があり、其處から日燒に上ッてゐくので坂を上り初めやうとする處にも、一の浴場がある、それに日燒の住民が這入りに下るので、今や十餘名の老若男女か集ッて居る、そこて、役場のお方を見て、皆な、鄭寧にお辭儀をする、役場員は、私には何だか少しもわからない方言て、夫等の人々と問答がある、あとてよく聞いて見ると、役場員が、私の目指

す人々を召集して被下る爲めてあッた、次て、前に述べた峻路を提灯の明りをたどりつゝ、上ッてゆき、日燒八軒の一軒づゝを音づれ、役場のお方が、誰は居るか、彼は居るかと問はるゝので、居れば、それに、色々と申含められ、或一軒の家に集まれとの命を下されるのです、だん／＼と上ッてゆく內に、此家は昨年看護婦の詰所になッてゐた處、此內は警察署員の詰所であッた、あの家は役場員の詰所であッた、炊事場であッたと、一々、說明をせられ最後に上ッた家は、患者收容所で、日燒ては比較的の富家て內が廣いし、又、厩の横に別棟があッてそこは、醫員の詰所であッた、尙今上にも一軒あッたが、それには上らなかッたのです、此、患者收容所てありし家に目指す人々を召集するのですから、同行の方々と共に、一先づ、此內に腰掛けて休息を致しました、此處は隨分高い塲處て、崖の上から、多久原邊の燈火が遙に眼下に當ッてチラ／＼と見えますし、また、此日は小城町を出てゝ出來隨分の熱さに苦みしも、今となッては、山間の凉氣に、非常なよい心地が致しました、其內に、此家の人が親切にも一行をもてなし、番茶だの、漬物、香の物を出してすゝめる、一行に、一々、箸で取ッて、吳れる山里の人の親切は、心底にまで浸み入りました、彼是する間に人が集ッて來たので、之に對して役場のお方や、郡役所のお方が色々と說示があり、一同が心よく聞取ッたので、私は目的通り其人々の身体を撿査することが出來ました、それらの人々は、皆昨年惡疫に罹ッたのが、幸に、快復して、今日、かちして働いて居て、其內の一二は私が東京に居ながら姓名や年齢を存知て居たのもありました、此邊の言語は私には少しもわからない、丸て、支那か朝鮮ても往ッたやうです、役場のお方が始終通辨して被下ッたも同樣てあります、談判や撿査やて此夕も九時過になりましたが、明日尙一回調べねばならぬから、今度は、皆んなに多久原の役場に集るやう約束して貰へました、

九時過に用務を終りまして、それから再び多久原迄歸り、車に乘ッて、小城町に歸着したのは丁度夜中の十二時でした、翌日は私一人で役場迄出かけますと、日燒の人も集ッてゐて再度の檢査が出來て大に滿足したのであります、ドウト、地方と云ふものは、東京で思ッてゐたとは違へ、案外の、困難を見ることと感じました、がしかし、地方のお方が非常な御好意を以ッて充分なる便宜を與へられたのは私に取ッて忘れられませぬ次第で、殊に小城郡并に北多久村の人々の盡力は多大なるもので、後に佐賀市に出まして縣知事にお目にかゝり、厚く此お禮を述べておきました、

岸川の話は右でとゞめまして、一寸小城町のことを述べまた、小城町は佐賀市から滊車で十分許り西に向へは久保田驛と云ふがあります、そこで滊車を下りて車行凡そ四十分許りて達せられます、佐賀の平野の果てであつて、一帶の山脈の麓に位する人口凡そ三千許もあらうかと云ふ名邑です、郡役所、縣立小城中學校、高等女學校などあり、又有名なる小城公園があります、公園の景色は餘程よろしいやうに見受けました、中學校は公園地の縮で、最も適當の土地であります、また、菅野醫學士の管理せらるゝ私立病院、私の友人中島待薬士の主管の細菌學研究所もあります、此地出身の方々には波多野現農商務大臣、松田正久氏、中野工學博士、菊地醫學博士等と聞及びました、古は佐賀の別館で幾萬石かの大名地であつたそうです、名物の小城羊羹は此地方の名代と申すことで、私は滯在中大層賞味致しました、

●長崎市の熱さ

私は小城から長崎市に參りました、此處では、二泊しか致しません、或日の夕方に着いて翌日一日用を辨し其翌日一番で佐賀縣に立ち歸つたのですから、當市のことは、殆んど知ることが出來なかつたのです、私の參つたのは、八月の末でしたが、何分熱いので、夜分は宿も表戸は占めますが、裏は皆明け放してす、それでも、十二時頃迄は、ほてつて、熱く

て〳〵堪えられなかつたのです、東京では、夏分熱いと云つても、一夏に一晩か二晩だけ、熱くて眠むられないことかある位ですが私の長崎の二晩が、丸て、そうてありました、日中公用て出かけました時にも、實に面くらふやうてした、唯最もよかつたのは、縣廳から小蒸滊船て女神の海港檢疫所に送つて貰いました時に、港口から、涼しい風にそよ〳〵と吹き迎へられまして、左右に全市を眺めつゝ乘り出した時てあります、檢疫所も亦最も涼しい場所て風入りがよくて熱さを忘れることが出來ます、此ほかては何處に往つても熱くて困りました、

長崎市の一部分か大部分か私にはわかりませんてすが、街路に石が敷いてあります、石敷になつたのは、何年前てすか存じませんが、それ以來、夏分、蚊が減じたと聞及びました、當市も水道が布敷してありますから衛生上には甚だよろしいのてす、全國の都市中水道の布敷してあるのは十指を數ふるに足らぬ位てすが、どうか、何處も、皆水道に致し度いものてあります、これは序に申上げて置くのてす、

私は長崎を最終點として、それから、歸路は往路と同じて、東京に向へ、ました、所々に立寄りましたけれど、もあまりお話が長引いて皆さんの御迷惑と存じますから、マヅ〳〵、是れ位て、筆をとめ度いのてすが、今一つ伺度いことは

●滊車中て感じたこと

てあります、長い旅行には滊車中て種々の事に出逢へますが私の申上度いことは

第一、滊車中ては敷物が必要てあることは、申上る迄もないのてす、一日拾時間以上も乘つて居れば躰の下部が痛くなる、それ故毛布其他の敷物が必要てす、私は、何分大切なる荷物を携へてゐて、ドウシテモ、之は預けることが出來ないのてすから、從て、敷物などを用意して出るだけの手間がないのでした、所が、滊車中ては敷物を携えてゐる人が自分一人てもつて一人前所か、二人前も自分の敷物をひろげて、傲然と控え居つて、人々席を讓らぬと云ふ

風てあります、是はよろしくないことゝて、誰もお互に便利であるやうに、平等に便宜を得るやうに改良し度いと申すのであります、

第二、滊車中の掃除に就きて、私は官線、山陽線、九州線を通ふして、何れの線路でも、何時でも、出會つたことは、立派なる風をしてゐる乘客が林檎、柿、梨の類を持ち入りて其の食べ屑や、皮などを、車中の通路に所せきまで投棄する、隨分、きたならしい、そこで、「ボーイ」が度々掃除に來る、それはよろしいが、掃き寄せ方が當を得ぬから、塵埃が立ち上ること甚しい、元來滊車の中は、煤烟や沙やで塵埃がみち／＼し易いのに、掃除の爲めに、益々、穢れるので、不快でたまらなかつたのです、それ故、私は、先づ乘客自身も餘り見つともないことを爲さぬやうに氣を付けられ度い、又掃除のことを司どつてる「ボーイ」の取り廻しをなさる當局の人々に冀望し度いのは、「ボーイ」が一方は乘客の帽子や、洋服の塵をば、一々、掃つて呉れる迄に注意が行き渡る程であるから、更に一歩を進めて、滊車中の通路の掃除は、可成塵の立たぬやうに、箒子に水をツけて、掃除するとか、又は、豫め水を打ツて置いて、はきよせるやうにして貰へ度いと云ふのであります

（前稿九月、本稿十月記送）

（完）

●箴言

早起きする人は健康快活にして且勤勉なり



一口話

ドクトル　富士川游

（四）手療治

普通新聞紙を見ますと、女醫者、衞生顧問などの名にて一つの欄が設けられて、手療治の方が示してあります、本雜誌にも質疑應答の欄の内に大分そう云

ふ風なことが見えますが、私はかゝることは宜しからぬことゝ思ひます、たとへて云ひますれば、腸窒扶斯にかゝりたるときは如何して宜しきか、感冒をひかぬやうにするには如何して宜しきかなどの事は、一概に總論することが出來ますから、質問に應して答辯することも出來ますし、又その答辯が實用に供せらるゝのでありますが、例へば私は月經が不順にて困る、治療の方法は如何してよろしきやなどの問には、何とも答ふることは出來ませぬ、其人の體質、現在の摸樣より病氣の本態までを、よく見定めた上にあらざれば、その治療の方法をいふことは出來ませぬ

個人の病氣の場合には、速かに自己が信用せる醫家の診察を受けて、治療を乞ふのが第一であります、女醫者、衛生顧問などの記事を見て、手療治をすると、却て病氣を惡くすることがありませう、まことに危險なることとであります

醫者が來るまでの間の處置、救急の手當、病氣の看護等は、誰人も知らねばならぬ事であります、これ等の事は雜誌上で問ひもし、答もするが宜しい、個人の病氣のことは其人を診察したる上でなくては分らぬのでありますから、個人の病氣のことにつきて、その病氣の全汎のことをいふは、寧ろ害あるとも、益のないことでありませう

（五）腸窒扶斯と赤痢

日耳曼政府は、この程、腸窒扶斯及び赤痢の豫防法につきて、國内の醫士に告示しましたが、これは醫士ばかりでなく、誰人も心得て居らねばならぬことでありますから、次にその內の主なる箇條を擧げませう

（一）患者屆出　腸窒扶斯及び赤痢と明かに定まりたる患者は無論の事、腸窒扶斯及び赤痢の疑ある病人をも、時を移さず、其筋に屆け出づるを肝要とす、然らざれば腸窒扶斯及び赤痢は十分に撲滅することを得ず

（二）疑似患者　腸窒扶斯又は赤痢ならんと思は

る丶患者は、いよ〳〵其病症の判然するまで、腸窒扶斯及び赤痢に對して施すと同樣の處置を施すべし

(三)患者の隔離　腸窒扶斯及び赤痢の患者は之を隔離すべし、又成るべくは看護婦をこれに附け置くべし

若し患者を隔離することの出來ざる場合には、之を相當の設備ある病院に入るべし

患者の病氣は已に全快するも、其病毒は矢張大便、小便などの中に在るものなるが故に、病症の恢復せる、後一周日の間に二度づゝ、患者の大小便を檢査し、その内に腸窒扶斯及び赤痢の黴菌を見ざるに及びて、始めてその隔離をやむべし

(四)患者に接するもの丶注意　患者に接するもの、及び看護人は腸窒扶斯及び赤痢の事をよく心得て、豫防のことに怠るべからず、殊に最も注意すべきは其手にして、常にその消毒を十分にせざるべからず、又患者の病室内にては決して飲食すべからず(我邦の習慣として、患者の病室にて、醫者及び見舞人に茶と菓子とをいだすは宜しからず)

患者の衣服、寢床などの患者の大小便などにて穢かさるゝことを避くべし

(十六)理髪の衛生

獨逸ハルレ大學衛生學教室のストラースマン氏は理髪所の衛生につきて、近頃有益なる報告をしました、其大意を擧ぐれば次の通りであります

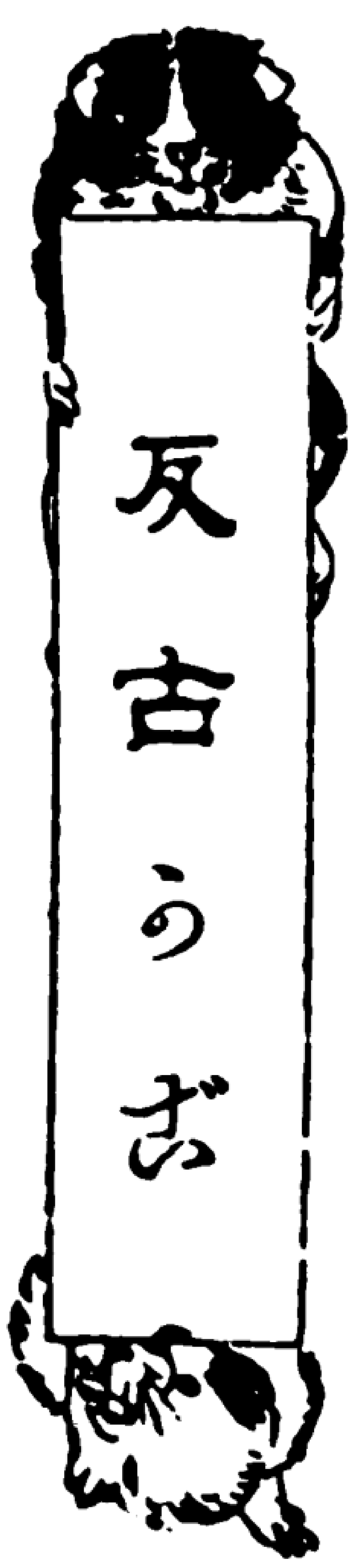
理髪所の衛生が、行屆かぬ場合に、皮膚病及び毛髪病を傳染するの媒介となることの多きは明なることてあるから、理髪所の衛生は忽にすべからざることである、

剃刀及び鋏は、病毒を傳播することは少ない、且これを消毒することは容易である、これを相當の消毒液(リゾール等)に浸せばそれてよろしいのである、消毒の困難なるは「ブラッシ」である、これを消毒するには百倍の曹達の溫液を用ひ、又は稀薄の

昇汞水を用ふるの法がある、しかし温液を用ふるときは「ブラッシ」が直くに惡くなる、「リゾール」、石炭酸などは不快の臭がする、

「ブラッシ」の消毒藥として、最も宜しきは四十「プロセント」の酒精溶液（百分中四十分の酒精を含む）に四「プロセント」の「フォルマリン」液（百分中四分のフォトマリンを含む）、を混したるものである、この消毒液を用ひたる「ブラッシ」は用のすみたる後て安母亞水で洗はねばならぬ、その要用は少額である

我邦の理髪法の中にて、殊に婦人の理髪にて、梳櫛、かもじなどを用ふるにて、甲の人よりこの人に病氣を傳ふることは多かるべしと思はる、消毒の方には氣を附けねばならぬことてあります、たゞ形容のために消毒衣を着けたるのみにては何の役にも立ちませぬ



●婦人の職業疾患に就きて

醫學士　愚哉生　譯

縫箔屋によく來る病は弱視だの、視力疲勞であつて、あまり近い所のものばかりを見つめる爲に、眼球の内にある遠近の調節を司る筋肉を疲勞させるからて、此職業に從事する婦人達は殊に此弱視症にかゝりやすい、之はたゞに縫箔屋ばかりでなく、他日同じ樣な職業例へば寶石の細工をするものにもよく見受ける、一般に之等の職業ではあまりに目に近く仕事をよせて細工をするから、眼の中の筋肉を常に同じ樣にのみ働かせて漸く其力を弱めるのと、一つは働く場所が光線の不足な爲に起つてくるのだ。此病氣が重くなつてくると數分間ですら仕事をつゞける事が出來なくなるし、縫針をさそうとすれば働の方

へそれたり、ふるへたり、働いたりして、倘つゞけて仕事をしてゐるとしまいには眼が勞れる爲に眼が痛んで來たり、また焮衝を起して來る。

だから此職業に從事してをるものは、必要上眼の保養をさせる爲に、時々休息しなければならないし、光線の充分な、はつきりと物の見える所で働くがいい。

眼を非常に使ふ仕事に光線の不足なのが有害である事は、已に世人のよく知つてをる事で、學校衛生などでも、此頃はやかましく云はれてるが、實際女教師、女學生などに近來は近視眼がまして來た。

曾つて女教師が、不健康な、空氣の流通の惡い、濕つぽい、塵埃の多い教場で教課を受持つてゐた時分には、女教師に、よく貧血病、頭、氣管及肺の病氣があつたが、幸にも國家と公衆の注意によつて、學校の設備がよくなつてきた爲に、之等の疾病もへつて來て、女教師等も、健康な、空氣の流通のいゝ教場で、無病で教鞭をとる事が出來、平均高齡に達する樣になつたのは誠に幸福な事である、之等は殊に近時執行せられた學校衛生規則の御蔭であつて、異に結核にかゝる危險を少くさせた。

次に塵埃、氣發した瓦斯、蒸氣等を吸入する事に就いて少しく述べようか、此等の危險に遭遇する、工場の婦人達に向つては、倘遙かに充分適當な衛生規則が發布せられたいものだ、醫科大學教授ウッフェルマン氏が其外來に來る肺勞患者の統計を作つたら、最も多かつたのは衣服及洗濯の工場に行つて働く婦人であつた、即ち縫工だの、たちものを業とする人などであつた、之等は其職業をしてゐる際にたつ、種々の塵埃を吸つて氣道の粘膜を刺戟し、傷ふ爲に起つてくるらしい、

だがまたある一種の他の職業に從事する工女も、其職業の爲に起る多數の塵埃の爲に、慢性の咳嗽だの、肺病にかゝりやすい。

之等は、初めの內は小さい塵埃が、呼吸器の粘膜を刺戟する丈だが、毎日此の樣な刺戟がつゞくと、つ

いには喉頭だの、氣管だの、しまいには肺の慢性加答兒を起してくる、之が永くつゞくと肺の氣胞の粘膜を包つて、保護してゐる表皮細胞を變化させて、病源菌の浸入を防ぐ事が出來なくなる。つまり此う云ふ所へ結核菌が入つて來ると肺結核となるのだ。

看護婦なども、多數の重症患者と直接に近接してゐるし、各種の危險に遭遇してゐる職業からして、結核や膓窒扶斯にかゝる事が少くない、故に之等の職業に従事してゐるもの達は充分注意し、非常な清潔と、殺菌法の適宜な應用とを怠つてはならない。

又脾脫疽毒即脾脫疽菌が襤褸や其塵埃から製紙場の工女によく起る事はよく知れ渡つた事だが、此病氣は又毛をつむぐ人や刷子を製造する工女にもくる、此危險を防禦するには、此病源菌を含有する材料悉皆を、仕事にとりかゝる前に充分熱湯で殺菌する方がいゝ。

砒素の塵も仕事の折に立つ所では吸入されて中毒を起す事がある、之は以前は細工の花を造る處で、青い砒素を含有する色素を應用してゐたから、其處の工女たちに多かつたが、今は法律で、かくの如き色素が禁じられたから、外國にはあるが、玆では殆んど其跡をたつた。

（以下次號）



家庭看護法（前號の續）

（本會講演）

醫學博士　三宅秀君

私の講話は前回の續きでございまして、此前一二回藥の御話を致して置きました、今日も尚其藥のことに就きまして續けて御話致す積りでありります

此前にも申上げましたが兎角素人が病氣になりますと第一に藥を賴みと致しまして、餘り藥を賴みに致し過ぎるのであります、此看護法の御話を致しまする時最初に申しました如く、一に看病二に藥でありまして、其價値を安く考へられる方は病氣を治療致

しますに却て宜しいのでございます、醫師の方でも藥には總ての病氣に皆適當の藥のあるやうに思ふ者もありますが醫師としては大きな間違であります、素人の方ではさう云ふことを多くは御承知がありませぬから切りに藥を頼みにして他のことは却つて忽諸にするやうなことがあつても未だ其過ちを咎めることが出來ぬやうなものでありますが、醫師ですら只管藥の力に依つて病氣を癒さうと致して、其他に病氣を癒す手段方法があるにも拘らず却つて藥を先に立てるのは古へからの間違であらうと思ひます、今日其事に氣が着きました以上には成るたけさう云ふ誤りの考を素人方の考からも取除き醫師は第一にそれを斥ぞけなければなりませぬ、私の次には松山君が肺病の豫防並に療法のことに就て御話になるでありませうが、肺病を豫防するにも藥は第二の地位にあるだらうと考へて居ります、松山さんはどう云ふ工合に說かれるか知れませぬが、肺病の豫防が出來ると思ッて藥さへ服んで居れば病氣にならぬと云ふ御請合はなさるまいと思ひます、それから肺病になつた曉にも此藥さへ服んで居れば乾度肺病は全治すると云ふ御請合もなさるまいと思ひます、矢張り藥は幾分か治療の方を助けましてさうして養生をする看病する方が豫防にもなり治療にもなるのであります、然るに此藥ばかり頼みにして病を早く癒さう確かに癒さうと云ふて藥のみ用ゐれば好いやうに考へて居る者の迷ひがとんでもない間違を來します、此前にも申しました如く醫師や藥劑師の如き藥を取扱ふ業の人にはそれ〳〵法律規則等がございまして藥間違などが起らぬやうに致します種々の規定があるのでございます、けれどもさう云ふ規則が醫師の方にあつても、素人の方で藥取りに遣る時などに得て間違を起し易いものであるから、さう云ふ間違のないやうに其防ぎの方法手段等は前回に述べました、今日は最早藥が病家の手に渡つた上に其藥を服む時の間違や、其危險を防ぐ爲に一二の事を申さうと思ひます

醫師の方で藥を處方致しまして病人に渡す時分には、其病症に應じて强く藥を用ゐる時もあり輕く用ゐる時もあります、所謂七加減と云ふものがあるので、併ながら其七加減を致します塲合に於ても此位までは毒にならぬけれども之を超すと必ず毒の作用を爲して、其病人を癒す目的で用ゐたものが却つて其藥の爲に別な病氣を拵へると云ふやうな惧れがありますから大抵何の藥にも用ゐる多寡の制限があるのでございます、是より餘計用ゐてはならぬと云ふ制限が一々其藥に附いて居る、然らば醫師が病家に藥をやる時分に其制限までの所は一體に渡して宜いかと云ふと決してそれては安心がなりませぬ、何故ならば其制限の極點の所まで一通り藥をやつて置きますと、病人は平生藥ばかり賴りにして居りますから何でも良い藥を澤山に屢々服みさへすれば宜い二回分位一緒に服んだら半分の時間で早く癒るだらうと云ふやうな誤りの考があるからして今のやうに一杯の極點まで調合して之をお服みなさいと言ふて渡して置くと、素人の方では「二度分も一緒に飲んだらそれだけ能く利くだらう」と誤まつて服まれる、さうすると舊の病氣は癒らぬで其藥に中てられた爲に別の病を附加へて來ることが往々あります、それでありますから醫師の藥を與へる時分には大概間違つて服んでも極點までは逹しないと云ふ位に、幾分か控目にして投藥することになつて居ります。そこで素人の方即ち病家の方では正直に藥を服んで吳れれば宜いが、極く激しくない病氣でございますと時々藥の服み忘れを致します、三度服めと言付かつて居てもツイ忘れることがあります、それから忙しい位な病人で別段に床の中に寢て苦しんで居るやうな病氣でないと忙がしまぎれに服み忘れたり、自分が樂みのやうなことをして居る時には其愉快の爲に藥を服み忘れて「どうも一度藥を服み忘れたから一日の業が濟まぬて、二度ぶり一緒にしやう」と云ふやうに怠る人はやります、さう云ふことは甚だ危險であります、自分で忘れて其罪を贖ふために二度ぶり

一緒に服む、されど決して藥其者は人の怠りを見遁しませぬ、それだけの藥が身體に這入つても病氣を癒すと云ふ方には利かなくつて却つて藥に中てられて多少の病害を來すのであります、斯う云ふ工合に藥は大切なもので、殊に近頃の開けた學理の上で拵え藥は皆毒になるやうに劇しい藥ばかりでありますから餘程正確に用ゐなければならぬのであります

（以下次號）

質疑欄



●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみなわかりよく認むる事●質問に性名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なしと云へとも事務所へは姓名御通知のこと●本號の雜誌に登載する文は凡そ前月十五日迄に申込まれしものとす

質問者　本所一會員

問　牛乳の良否を知る簡短なる検査法及検査の器械なども之あり候はゞ御教示を乞ふ

本會答解擔任者の一人

答　牛乳の良否を知ると云ふ事は、隨分六ッかしい事で、とても之を簡單に知る事はまづ出來ないと云つた方が至當である、が、しかし、近頃世に簡便なる検査法と云つて簡單な器械を二種類程發賣せられたのを見受けたから、親しく其品物を買つてやつてみた、兩方共或は牛乳の極めて惡るいのならば、見分ける事も出來るだらうが、とても牛乳の良否を精しく検査する事は出來ないと云ふ方が至當である、尤も心安の爲になる位のものと云つていゝのであるから、別段惡るいともいへないが、また是非御使ひなさいと御すゝめ申す譯にもゆかない、一は米澤町邊で發賣してゐる高峰氏の器械で、一は遠城氏發明の検査方法だと覺へてゐる、たしか此雜誌にも廣告がしてあつたと思つた。

質問者　本所一會員

問　母親の乳を検査して良否を知る簡短の方法伺

上候

答　母親の乳の事に就いては、此雜誌の「はゝと子供」欄で唐澤氏のくわしい御話しがあつたから、其所を見られたらよからう、とても素人方に其乳を檢査して良否を檢査するなどと云ふ、簡短の方法はない、母親の乳を檢査すると云ふ事は非常にむづかしい事て、專問の醫師すら一見此乳は良いとか惡いとか云ひきる事は出來ない位のもので、たとへ見かけ丈はいゝ乳ても、のませて見れば惡い事もある、之等はむしろ、其乳の出工合だとかを檢査するより、小供の育ち方のいゝか惡いかを見られたら、よろしからう。

問　「ネル」地と「セル」地とは衣服としていづれがよろしく候や

質問者　鹿兒島　一會員

答　いづれも着物としては結搆てあるが其必要は氣候の寒暖にもよることとて身體を涼しく仕樣と云ふには「セル」地の方よろしく又冬の如く氣候の寒きとき肌へぢかにつける肌着には「ネル」地の方よろし何故かと云へば「セル」地は其織り方遙かに「ネル」地より緻密であることは肉眼て見てもよく分る總べて織糸の線の平行して居る樣なものは溫を傳へることが早い之に反して「ネル」地は其織り方が不規則て織り方もあらく且織り毛が其空間を充たして居りますから溫を保つことが永いのである「ネル」地はわざ〳〵糸毬草と云へる薊の樣なトゲ〳〵のあるもので擦ッて毛を搔き立てるものだそうてすされば何れも結搆なものではあるが、其氣候と用法により各々其効能が違がつて參へります

問　私父、淸潔ずきにて常に灰吹に痰のたまるをやかましく申し、私しに掃除を致させ、其都度私も痰のきたなきものを知り居候まゝ心地あしく候へ共、何かかゝる際に用ゆる消毒藥にても之あり候や、またよき取扱法之あり候や御伺申上候

質問者　本郷　みちえ

答　之は至極よろしき御問だと存します、一體痰と申すものは極めてきたないもので、肺から、氣管支から出てまゐるものですから、もし其痰をする人に肺病でもあつた時には、其痰の中に肺病の黴菌が、たんとたまつてゐるのは分りきつた事でず、此痰を我國從來の風習に從ひますと、煙草盆の中の火入の側にをいてある、灰吹きの中にするのが例であつて、此煙草盆なるものは、いかな上等な客間でも、また上流の居間にてもどん〳〵出てまゐるものです、此煙草盆の中に入つてゐる灰吹、別段しつかりとした蓋もない、中には別段何も入つてゐない灰吹の中に御客樣は、遠慮なしに咳嗽でも出ようものなら痰を致します、すると痰と申すものは上記の如くに、有害な黴菌がたんと入つてゐるもし、また此中で黴菌の育ちやすいものであるから、之等の黴菌は容易に、室の中の空氣の中に飛散しやすい、をまけに火入にたんと火ても入つていようものなら、其火の溫熱で、痰はいよ〳〵蒸發しやすくなつて、其中の黴菌はいよいよ飛散しやすい、いはゝ煙草盆なるものは、我國の日用具中で只一の病源の黴菌の貯藏器であつて、同時に、黴菌を、室内に飛散する、まきちらす道具と云つていゝ位いです。

しかるに我國では之を洗ふのに、どうするかと云ふと別段に藥もいれない、只流しにてもいつて水を入れてさゝらでこする位が關の山で、大抵は流しへ行つてあけてきて、水でゆすぐ位のものです、すると此灰吹の中にはまだ痰かついてゐる事がある、して此灰吹は又室の乾燥かされて、また次の客なり、家人の前になり出されるのであるから、危險極まるものと云はさるを得ない、をまけに痰をする位の人はあまりに壯健な人はしないものであるから、多くは病人、例へは喘息とか、肺病とか、氣管支炎の人とか肺が多くする、夫れ等の病人の痰を貯へて、室内にまきちらす道具なのだから、吐月峰と云はうよりは吐病峰と改名した方が

至當な位だ、所が此吐月峯先生なか／＼に永い間御役に立つてゐて、何處の家にもある、しかも一年に二度位、せい／＼御正月と御盆位にしか、出代りを仰せ付けられない

まづ吐月峯の攻撃は此位として、其不都合、不衛生なる點に向つては充分改良を加へなければなりますまい。此ミチユ子の御問は誠に其正鵠を穿たれた御問で、此頃西洋の病院での痰の始末法を見ましたら、なか／＼によく出來てをりました、それは便所に桶と瓶とが備へてあつて、瓶には千倍の昇汞水がいれてあり、桶には上の方に漏斗がつけてあります、よると毎日家の中にある痰吐きを茲にもつていつて、先づ痰吐きの中のきたないものを此桶の中に捨てゝしまい、次きに痰吐きの中へは側の瓶の中にある昇汞水を入れてよく洗い、また此桶の中に捨てしまいます、此の桶にすると痰吐きの中も消毒されますし、痰を捨てた桶の中も消毒されて、誠に危險が少ない、やり方だと感心致しました、

此方法を日本でも應用するとして、灰吹は日毎に、もしまた出來るならは使用した度毎に、其中に入つてゐる痰などを捨てゝしまつて、其跡を昇汞水でよく洗い、よく洗へた灰吹きの中には三分の一程も昇汞水(千倍の)を入れてをかれたらよろしからうと思います、尤此爲には從來の竹の灰吹よりは瀬戸物の方がいゝが、それは、當分竹でもさしつかへがありますまい、

序いでに痰の捨て場處を御汚しあるが、其病院などでは、痰を入れたブリキ桶の中に鋸屑を入れて、之に「アルコール」をかけて燒きすてゝゐた、それは極めて安全の方法で、そうすれは黴菌はみんな死んでしまうからいゝが、之は凡べての家には用ひられない、せめて肺病の病人のある家でゝも行はれゝは結構の事である、只云つてをきたいのは、よく通常の家では灰吹をあけるのを下婢に命じると、下婢は夫れを臺所に持つてゐつて、食物を

作つたり、食器を洗つたりする流しに持つてゐつてすてるようだ、一方は口へ入れる食物を取扱ふ所へ、こんな黴菌のたんとある危險極まる物品をすてるのてある、險呑極まる次第てはないか、流しよりは不完全ながら便所へすてた方がよからう。て、なほよくやるには、煙草盆の中には必ず千倍の昇汞のはいつてゐる小さき瓶（一合か五勺位入る）を入れてをいて、之を痰をした度毎に灰吹の中に入れる事としたら、棄てるにも便利てあるし、また我國の衞生の上からいつても至極いゝ事と存じます、どうか此衞生會の會員の中から實行せられたいものてす、但し

此昇汞水なるものは毒藥てはあるが、醫師の許にいつて、痰を消毒する爲だと云つたら、きつとわけてくれます、

此の樣な問はどうか、たんとなすのてください、歡迎致します、

質問者　伊勢一會員

問　私方は片田舍てすから上等な牛肉を買ふ事が出來ません煮ると非常に硬くて老人は食することが出來ません最も上等と申しても右の始末てすからもう少し軟かく煮る法あれば御敎示被下度候

答　邊鄙の地にて柔らかなる牛肉を求むることが出來ませんければ致し方はありませんから俎豆の上に其肉を載せ庖刀て氣永く細かになる迄たゝくのてすそうすると老人にも食べられるようになります東京には大概の牛肉屋には肉を粉碎する器械がありまする素人の御宅でも多量に用ゐらる處では備へ置かるゝが便利てす

質問者　麴町一會員

問　小兒にお茶を飲用せしむるの可否伺上候

答　お茶のなかには神經を興奮せしむる作用を有する成分を含有す、小兒にお茶を飲ましむるは無用のことなり、日常小兒の神經を興奮せしむるの必要は毫も無ければなり、お茶の種類も種々ある

か、濃茶薄茶の類は云はずもがな、煎茶にても濃きものは勿論害あり、可成は白湯を飲ますやう幼時より習慣をつくべし、しかし番茶を「ほうろく」にてよく煎りこがしたるを用ふるは大害なし、

問　初生兒が兩便の爲めにか、下の方の皮膚赤く色取り、たゞれそうに見ゆ、如此場合に簡單無害の療法は無之候や

大阪一會員

答　硼酸軟膏は大抵の藥店にも販賣すべし、之は素人にても購求し得らる、誤用するも先づ〳〵無害のものと謂ふべし、此藥を淸潔なる指の尖に付けて局處に塗布すべし、塗りたる上からは、新らしき綿か「ガーゼ」を以て蔽ふて置くべし、しかし之は小兒が躰や足を動かせば直ぐにずるゆゑ、別に蔽はずとも可なり、綺麗なる「おしめ」を當てゝ置くもよし、一日に一二回宛塗布すること、塗る時には前に塗りたる分を綿又は「がーぜ」にて柔かに拭去るべし、如此すれば三四日經て大抵癒すべし

問　ベルツ水の調合法に就き（和田儀方其他諸氏より時節柄御質問に付左に其處法を記す

答七、然り、處方左の如し

一苛性加里　〇、五
一グリセリン　五、〇
一アルコール　五、〇
一香水　五、〇
一蒸溜水　八五、〇

の割合に混和す、冬分手の荒れ、顏の「ひゞ」等に塗りてよし

●御斷り　福島森氏の問ひは恐くは濕疹ならん東上して專問の大家に就き診察を乞はるべし若し患婦の態々東上すること能はざれば縣下原の町田島醫學士は皮膚病の治療に經驗ありと信ず就きて診を乞はれよ

●尙會員方の御質問に出京せられて專門大家に診察を受けらるゝ事必要と思はるゝは●上州高崎秋田氏●新潟一會員●東京下谷一會員●又一女子と云へる方の質問は醫師の言はるゝ日數以內を少くも無論經過せねばなりませぬ然らざれば思はざる大

患を來す姓名御知らせあれば申し上げましやう●長野小林氏の御質問は國家醫學會雜誌第百七十一號です



研究欄 （會員の寄送を望む）

左の料理法は本會々員松崎直子氏より申込まれしものなり初め松崎氏には豫てよりフレンド料理會に於て同志と共に米國婦人に就き毎月西洋料理法講習中のよしなるが其方法は單に少數仝志者の記錄に止るのみにて廣く人に知らしむる手段なく遺憾と思ひ居らるゝ折柄偶々本會にて研究欄募集の事あり氏は幸ひとして毎月研究せられたる料理法寄送の事を申込まれたり右は本會の固より歡迎する處なれば本月より之を登載することゝなしぬ

又同會の伊東よう子氏は態々來訪せられ原稿の事に付種々申し置かれたり此料理法はミセス、ボールス氏の話されしものを略記せしものなりといふ若しわかり惡くき時はいつにても答解せらるべしと

左の品々は少しく季節後れしものもあれど今後はかくばかりにあらざるべし

●手輕西洋料理法　料理科會員

此處に述ぶるところの料理法は讀者之を實用に供せられんとを本會の希望に堪へざるところなり今玆に其季節に從ひ野菜果物の料理法を述んとす即ち十月は松茸、無果花、梨の季節なれば之等の物より述べんとす其料理法を知らんと欲する人々に取て恰も好季節にして且つ有益と思はるればなり肉類料理法に就ては冬季を可とすれば之れは後日に讓るとゝせん

●スチユードマッシルーム（煮松茸）

先づ松茸の皮をむき之を冷水にて洗ひちくの下部を切り取りたるもの（二合にバター大匙一杯）を入れ徐かに十五分間煮然る後是に少しの鹽と胡椒とを加

へて食用に供すべし

●ブロイルドマッシルーム(燒松蕈)

大なる松蕈を取り皮をむきぢくを切り取り之れにとかしたるバター大匙一杯に鹽と胡椒を加味し然る後其兩面を二十分間炙りヤキパンの上にのせ食用に供すべし

●スウイートペーアピックルス(梨の甘酢漬)

梨七ポンド(一ポンド凡百二十匁)
砂糖四ポンド
酢一ピンド(凡三合)
生姜　半ヲンス(凡三匁五分)
丁子　小匙一杯
肉桂　小匙二杯

以上六種の物を煮るに當り先づ皮をむきたる梨を四ツ切りにし生姜以下二種の香料を荒き白布の小袋に入れ酢と砂糖とを以て煮沸騰し始めたる時に梨を入れ餘り强からざる火氣にて二時間煮たる後皆取出し壺に入るべし次に汁は濃厚になる迄煮て壺の梨に注ぎかくべし若し當座の用にせんとならば木蓋を施し置べし又數週間或ひは數月間置かんとならば汁を猶濃厚になる迄煮詰め之れに以前取り置たる梨を混入し復び共に煮るべし然る後熱湯を入れたる器物に硝子壺を入れ之れに其のスウイトペーアピックルスを入れ黴の生へざる樣に少の綿を口に當て螺旋形の錫蓋にて密閉し冷所にしまひ置入用の節用べし溫ツき肉に付け合せて用ゆれば味甚だ美なり「硝子螺旋形錫蓋壺は銀座十一屋にて求めらるべし」

●無果花のジャム

皮をむきたる無果花一ポンドに砂糖一ポンドを琺瑯引大形の鍋に入れて煮(決して水を注ぐべからず)焦げつかざる樣絕間なくかき廻すべし若炭火を用ゆるならば火氣を、よわくすべし

無果花は黑色を帶び濃厚に且つ透明になるまで煮るべし長く貯へ置くには三時間乃至四時間煮然る後壺中に納め紙にて目張りをなし置けば數ヶ月間貯藏するを得べし

●栗ふくませ

日本橋　田村き代子

先づ新のむき栗一升の見積りにて栗をゆでるには唐銅鍋をよろしとす栗は九月中は二十分間位にて湯だる十月になれば凡五十分間位（栗の分量少きときは割合に時間を多く取るものなり）故に二三升なれば三十分間位にてよろしさて栗をゆでるにも九月中なれば水を一度位取替へてよろしけれども十月になれば二度ほど取替るなり之は皆さま御承知の通りあくを取る爲なり水を替へるには鍋ぶたをかたくしてどこからも風の入らぬ樣にして湯をあけ（風のはいるときは皆々くずれる恐れあればなり）すぐにふたの上より水を入れてさまし栗に水の大凡かぶりたる時蓋を取り又ゆでゝ後針にて突き刺し其柔らかになりたるを見斗ひ冷したる栗に生砂糖二百目をあくひきになしたる物を入れ又鹽少々みようばん少々入れ煮る時間は十五分間位より二十分迄とす

注意　新のむき栗は日本橋の魚河岸近傍の八百やにて賣ります

大家談片

左の談片は嘗て某小兒科大家の說かれたるものなるが冬季に關する小兒の衞生は時節柄必要なれば玆に掲ぐ

▲小兒の寢衣　小兒に就て冬期第一に注意して貰ひたいのは寢衣の事です。是は先達も母の會で一寸話しましたが、何處でも大人なら浴衣かネル位のものを用ふるのが通例であるのに、小兒に對しては何處の親も云ひ合した樣に、綿入物を着せるのが常で極端に云へば羽織を脫がす位に止まつて居ます。此事はこれまで幾何醫師が八釜敷云つても平氣なもので、却つて無益ぬ理窟を付けて居るのが多い。それは小兒が夜着を踏脫いだ時の用意だと云ふのが主な

のですが、これが抑も大變な誤解で、綿入物を着せた上に夜着を掛けるから、小兒は熱くて蹈脱ぐので、寒ければ潛り込むのは當前な事です。此の理窟を取違へて、地位の宜い家程此弊は盛なのですが、夜綿入物を着せて寢かす爲めに、皮膚を弱める事や、風邪を引かせる事は、實に數へ切れない程多いのです。

▲呼吸器病の外出　小兒て咳の出る風邪に罹つて居る者をねんねこて背負て外出する人が能くありますが、全体咽喉部以下の呼吸器病には、冷かな空氣は害はあるとも少しの益はないのですから、何程小兒が外へ出たがつても、其時は努めて暖かな室内に居る樣にしたいものです。

▲呼吸器病と海邊の療養　呼吸器病の揚句に、海邊て療養を加へるのは此上ない事ですが、幾何空氣が好いからと云つて、其地勢を能く調べないと、却つて猶身体を惡くする樣な事が多いのです。これは小兒は一体に抵抗力が乏しい處へ、病後て一層衰弱して居る折だから耐りません。海邊の風當りが烈しい爲に、忽ち寒風を受けて折角全快掛つた病氣も再發する事になるので、例へば同じ鎌倉、大磯、國府津邊でも、風當りの烈しい所と左程てない處とあるやうな譯て、國府津の如きも停車場附近と海岸とは、位置は些少の違ひですが、風當りは大變な相違ですから夫を能く調べて掛らないと、態々轉地療養をしても、何の益にも立たない事に成るのです。そこで新鮮な空氣と云ふ方からは、外出程宜い事はありませんが、冬季は殊に天氣具合に注意して快晴な風の無い時を撰んて出さないと、自然健康を害ねる事になりますから、外へ出すのが全く善いと云ふ事は出來ません、其れから小兒の泣きを止める爲めに、無暗に食物を與へるのは惡い事です、小兒に間食の物を與へる事は無論必要てすが、三食共に五食位ゐが適當て、餘り度を重ねるのは善くありません、尤も年齡に依つて量や種類は違ひますが、大抵乳離れから十一二歲位ゐまては、間物を遣る方が善いのてす云々

中外彙報

流行性腦脊髓膜炎豫防法

近來東京府下に本病流行の徴あるを以て大日本私立衛生會にては淺川醫學博士の執筆にて此豫防法を配布せられたり今玆に之を轉載す

第一性質　流行性腦脊髓膜炎とは腦及脊髓を被包する薄膜の焮衝にして此病に罹かるときは多くは忽然として重病に陷りたる如き感を來し劇頭痛、項部の強硬及び疼痛、惡寒、發熱、嘔吐等あり次に腦病の症狀は著明となりて眩暈、精神朦朧次に昏睡に陷り呼べども容易に應ぜず時に譫語を發し四肢或は其他の部に痙攣を發し後には左或は右なる偏身癱瘓して自から動かす能はず或は下半身の癱瘓することもあり

然るに其容態は病勢の輕重に應じ自から緩急の差あるを以て一樣に云ふ可からずと雖ども兎も角も急劇に腦の故障を來す疾病と知るべきなり。

本病の尤も急劇なるは二三日の後に死し或は甚しきは既に數時間內にして斃るゝことあり又輕きは初め重き容態にて發するも其症狀はやがて全く去り數日の後快復に趣くあり之れを平均するに二週間乃至四週間內腦症狀の持續するを常とす。

死亡割は流行時の異なるに從ひ一定せず歐洲に於ける流行に徴するに或時は患者の半ば死亡し又或時は死亡數僅かに五分一に過ぎざりし事なり然るに本病は幸に治するも往々不具の疾病を貽すことあり之れ主として重症の患者に見る處にして即ち聾者となるあり若し其患者にして幼者なりせば爲めに聾啞となる可し又眼にも種々の障害を貽し甚しきは盲目に陷るものあり、其外頭痛、失神發作、全身痙攣發作、痴呆、半身又は偏身の不隨意、失語等の症を貽すことあり是等の諸病は徐々に快復するものあれども又中には終身病に陷るもの尠からず。

流行性腦脊髓膜炎とは右に述べたる如く一度び之れに罹れば斃るゝもの多く好し治癒したりとするも往

々不具の疾病を後に貽すことあればこそ吾人が危險の疾病として怖るゝ所以なれ

第二流行歷史　本病は歐洲に於て太古より流行せしものに相違なきも之れを舉證すること難しされども百年前に於てゲンフ（瑞西國）に流行したるは慥かに眞の流行性腦脊髓病にして先づ之れを以て歐洲に於ける初發流行と認むべきなり其以來は歐米各地に於て時々流行を見たり

本邦に於ても明治三十四年以來和歌山、大阪、兵庫、横濱、鹿兒島、熊本等に續々本病を發生し本年に至り東京に於ても數十名の病者を發生するに至れり其狀況より察するに本病は我邦に於て年々に廣く蔓延し來りたるを以て吾人は之れに對する充分の覺悟なかるべからざるなり

第三原因　本病は流行性に現はるゝ疾病なるを以て特異の病原細菌の作用に因るならんとは往時より學者の豫想せし處なりしが細菌學の發達するに至り果して之れが病原たる細菌を發見するに至れり然るに本病はフレンケル氏肺炎菌たる雙球菌が腦脊髓內に進入して發することもあれども世人はワイクゼルバウム氏の發見せる雙球狀の細菌こそ當然の本病々原菌なりと認定するに至れり

此ワイクゼルバウム氏の發見したる細菌は豆形の球菌二個連結せるものにして之れを腦脊髓膜炎菌と稱し人工培養基に培養すれば發育して限りなく其數を增殖するの性あり又人體に此細菌の寄生するあれば好んで腦脊髓膜に寄住するの性あり即ち夫れが爲めに腦脊髓膜炎を發するなり

左れば本病の病原體は生活せる細菌なれば此もの甲より乙に傳はりて以て傳染するの性あり之れ本病が流行を來す所以にして亦甚恐るべき所以なり

偖此細菌が如何にして腦脊髓膜に迄侵入し得べきやと問ふに即ち左の二道よりす

（甲）　本菌は先づ鼻腔の粘膜に附着して爰に彼れが巢窟を構へ終には漸次に腦內に侵入するに至る是れ鼻腔と腦腔の間に於ける骨層が極めて粗

薄にして細菌の腦內侵入に極て便利なればなり

●肺病なき人民　米人ケロツグ博士の說に今より百五十年前西班牙國殖民の一隊は初め恐るへき肺結核患者なりし此一隊は漸次に中米を橫斷しテグシガルパより程遠からざる太平洋沿岸の山腹に居を構へたり此山腹は海拔二千五百呎にして世界中に在りても亦他に比類なき健康地の一たり一隊は玆に農業牧畜に從事し來り今日に在りてすら此殖民地に達すべき道路なき程なれば海岸より此處に達するには數日間唯々足跡を趁ふて進むの外なきなり又其村落の家屋たる風土に隨つて構造宜しきを得周圍には印度人棲息するも曾て雜婚行はれたることなく今日の住民は現に西班牙人の血統を傳へて渝る所なし近年に及び又エレーン大學卒業生にしてサシ、ペドロスラの住民ハンター博士此住民の歷史を研究し兼て現狀調査を試みたるに此住民は中米に在て最も美はしき人種にして既に久しく肺結核症の歷史あるを聞かず又住民の躰質に就て檢査を施したるに一人も該病を患ふべき徵候なかりしといふ

▲白癬病　去月上旬より府下板橋小學校に發生し其傳染の力甚だ強く既に四十餘名に感染せし爲め其驚き一方ならずといふ其初め同校生徒の內に白雲樣のものを生じたるものあり別に傳染の模樣もなければ其儘になし置けるに追々感染するもの多きに至りたるよし頭部に發生するものは恰も頭瘡の如く初めは「フケ」の樣なもの出來其形ちは豆位より一錢銅貨位の禿を生じ其處はだん〳〵に膿み恰も火傷したるものゝ如くなり顏に出來るものは俗に言へる錢瘡の如く圓形にして粟粒大の赤き疹ありて其傳染力にも慢性と急性ありといふ兎に角平常毛髮を不潔にする人は傳染し易く「フケ」及膿み汁より人から人へと直接に傳染するもので又動物の媒介によることありといふ右に付板橋小學校に於て警察醫の徵菌檢査全校の消毒等にて一周間停學をなし頗る警戒しつゝありといふ

▲理髮業者の取締　警視廳にては近頃市內各警察署

に一名宛の理髪取締巡査を新たに置き管内を怠らず巡視せしめて之れが取締を勵行しつゝありとの事なるが多數の營業者中消毒藥を使用せず該規則を守らさるもの多きか爲め昨今科料に處せらるゝもの甚だ多しと聞く是でこそ豫防の實行は見らるべし

▲軍隊衛生の好成績　軍隊の衛生は地方衛生より總て一擧一動命令的により勵行せらるゝが故に其成績極めて良好なりといふ彼の臺灣の新領土には三十一年頃は臺灣衛生の不行屆なると土地の情況に暗きとにより當時脚氣マラリヤは全患者の七分を占め廣島第三區病舍に收容の患者も八分方は傳染病者にして全患者三百人乃至百九十人を下りしことなかりしが糧食改良の結果脚氣は殆んど其跡を絶ち又マラリヤは其病原のアノフエレスと云へる一種の蚊より來ることを發見せし以來日沒後は兵營の窓に布片を張り衛生は面部其他を薄き布片にて造れる網樣のものにて被ひ蚊にさゝるゝことを防ぎしかば是も脚氣と同じく其跡を絶ち廣島第三區病舍の如きも臺灣歸還兵は三十名乃至三十五名より多く收容するが如きことなし畢竟軍隊が衛生を重んずるより致す處の結果なれば普通の人士もよく個人衛生を重んじ豫防を勵行するに於ては年々莫大の衛生費を省き多くの人命を救ひ天壽を全うせらるべし

▲東京感化院の統計　此統計は不良少年なる入院生に就き同院創立以來の分を列擧したるものなるが衛生とは多少間接の關係に屬ずるも家庭を治めらるゝ婦人方の頗る注意を要すへきものなり今同院に於ける入院生不良の原因を百分數により類別すれは左の如しといふ

第一	愛情の過度	百人の中に二十五人一分の割合
第二	冷淡なる敎育	十三人、七分
第三	苛酷なる敎育	一人、九
第四	遺傳の不良と認るもの	四人、〇
第五	生母の不良	三人、四
第六	妾腹に生れしもの	一人、六
第七	朋友の不良	十六人、〇

第八、地方風俗の不良　三人、八
第九、家庭教育の不完全　十三人、九
第十　無教育　○人、九
第十一　不詳　十六人、四

此表によりて見るに同院に於ける入院生の七分弱は家庭教育の不良なるより來るもの多く又第一項の愛情即可愛がり過ぎる事より來る不良の少年は其四分の一に當るを見れば母たり妻たりする人の頗る注意を要せらるべきことなり獨逸の某感化院長は不良の少年を感化矯正するは左程困難にあらざるも其親を感化せしめ家庭を善良ならしむるは頗る困難なりと言れしは實に味ふべき事柄なり又右の統計によるに感化依賴者は商人に尤も多く次は百六十一人に對する農六十五人工十八人高等官十八人官吏五十二人銀行會社員二十人醫師十六人無業四十四人雜業十一人醫師十六人にて不良少年の年齡は滿八年より滿十八年迄のものにて不良少年の多きは十四、五、六、七、位の處に多しといふ同院に於ける成績は凡六割七分の改良矯正の効を奏せりと又不良少年教育の程度は左の如しといふ

	百人中
中學相當の學力あるもの	二十五人六
高等小學相當の學力あるもの	三十二人二
尋常小學仝上	二十七人三
僅に文字を解するもの	九人五
漸く自己の姓名を記し得るもの	二人八
目に一丁字なきもの	二人六

▲人躰砒素檢出量　人躰に含有せる砒石の分量に付巴里藥學校のアルマン教授は多年研究の結果一千分の一ミリ瓦の少量をも檢出する方法を案出せりといふ裁判醫學には尤も有益なる研究なりといふべし

▲鉛毒豫防法の勵行　伯林大學のゾムメルフエルド博士は本年八月獨逸塗飾工業大會の節鉛毒豫防の要件を述べて「ペンキ」塗業者、畫工、鉛白製造業、其他鉛製顏料を用ゐる諸業の注意を促せりといふ元來鉛白即ち炭酸鉛は工藝界に極めて多く使用せらるゝものにて之れが爲め中毒病を起すこと一般の人の豫想するより多きを以て要は一層嚴重に警察力を以

て豫防法なを勵行し當業者は特別の上衣を被り工場にては決して食事を取らず喫烟せず工場を出るときは必ず上衣を脫ぎ手顏を洗ふ等の注意を促せりといふ

▲肺病の硝子工　硝子磨きの職工に肺病者多しとの事は古より人の言ひ傳ふるところなるが近來の統計により全く其事實なることを知るに至り西洋にても之れが救濟策を講じつゝありといふ

▲救急箱と巡査派出所　大日本私立衛生雜誌記者曰く何れの都會地に於ても其市街の形勢は徒步的時代又は肩輿的時代に設計せられたる道路であつて交通機關や運輸機關が今日の如く發達せざりし時代に於ては狹隘なる道路にても不自由もなく又危險もなかりしならんも曰く人力車曰く自轉車曰く馬車曰く電車曰く荷馬車曰く何々と文明的利器は交通上にも運輸上にも應用せらるゝ目下の狀態は往々行路に於ける不時の負傷者若しくは是等以外の罹災者をも見受くること屢々にして此等の保護に任ずる警察官も應急の處置に窮すること又數次なるを目擊せり　希くは非醫者たるものが使用し居られて危險なき單簡なる救急箱を巡査派出所に備へ付られたきものなりとは同感にして其人民を利せること蓋し少からざるべし

▲豚肉の注意　豚肉には寄生虫の多きものなれば生肉は勿論生煮などを食すべからず故に之を用ゐるには充分湯で夫れより已れの好みに應じ如何樣にも調理すへきなり豚肉の上等は赤味と白と段々になり居る處にて湯でるときは赤肉は柔らかくなるも脂肪は固くなり決して溶解することなきをよろしとす腿肉の赤味の如きは下等の肉にして決してよきものにあらずといふ

▲躰温器に就て　從來本邦の各醫家間に使用さるゝ躰温器は重に獨逸より輸入せられ而して其の多くは同國に於て豫め他國向きとして粗製濫造せるものに係り殊に其の輸入するに當つてや航路一旦熱帶地圏を横斷せざるべからざるが故に幾分メモリに狂ひを

生じさなきだに精良の資を缺ける品の益々不正確となれる者なれば其の儘之を醫療上に使用し一向注意を拂はざる如きは不親切も亦た極まれりと稱すべく而も其の不精確より來る觀測の誤りは患者に對して意外の結果を招かしむるなきを保せず危險至極の沙汰なれば爾來其の職に居るの人は宜しく充分此點に留意し吟味を加へたる上始めて之を使用することを希望すると同時に尚更に一歩を進ると一般に嚴重なる一の取締法を設け政府自ら其の檢査及び監督に當らんことをも切望す云々とは此程歸東されし某醫師の改良談なりといふ

▲飲食物防腐劑取締規則　先頃内務省令第十號を以て定められしが防腐劑とは安息香酸、硼酸及其の鹽類、フルオ、ル水素及ひ其鹽類、「フォルムアルデヒツド」、昇汞、亞硫酸及其鹽類並ひに次亞硫酸鹽類、「サリチール」酸及其他化合物、「チモール」等にて販賣の用に供する飲食物の製造又は貯藏には防腐劑を使用することを禁止し製造販賣若くは貯藏するとを得ざることゝなれり、但し清酒の製造又は貯藏の爲め別に定むる試驗法に適合せるものは「サリチール」酸を使用すること及魚介獸肉に硝酸又は其鹽類を使用し販賣し貯藏するときは七ケ年間右規則を適用せずといふ、

▲牛乳の良否見付け方　牛乳の檢査法に就ては質疑欄にもある處なるが必らず煮沸することを忘るべからず併して不快なる異常の臭味とか、色の普通品より異なるか如き場合又牛乳のねば／＼する如き時煮沸するも凝固するが如きは既に腐敗に傾き居れるものなり

▲紅葉山人の遺骸解剖　明治の文壇に花を咲かせし同氏も今は胃癌の爲めに遂に夭折せられしこそ是非なけれ然るに氏は永眠に先ち遺言すらく硫酸セリドニアが胃癌に特効ありと云へるとも尚刀圭社會の問題となり居るやに聞けは死後は大學病院に送り解剖に附して該藥効の如何を確めよとさてこそ解剖するに至りたりといふ生きて文學の研讃に努め死して

醫學の進歩に資す實に感するに餘りありといふべし

▲一種の鼠とり藥　石膏の燒きて極く細末なるもの二分とオートミールの極く細末八分(又はソバ粉)とをよく混じ合せ鼠の往きかよひする處に置けば鼠は喜びて食ひ漸く渇を感じ水を飮むに至れば腹中に於て石膏は水を吸收して遂に凝結して遂に斃るに至るなり一時に用ゐる分量は二キログラム乃至五キログラムを程度とし濕氣なき木の箱の内にても散布し紙にてもかけ秘藏のものゝ如く見かけ置くをよしとす但し此藥を置きし傍らには水を置くべからす屋内に斃鼠を出し腐敗するに至るとあるが爲めなりといふ

▲全國傳染病患者　去る八月中に於ける全國傳染病患者及び死者數左の如し

	患者	死者	本年一月以降の累計 患者	本年一月以降の累計 死者
虎列剌	一二	八	三〇	一八
赤痢	七、三六九	一、五四六	二二、〇〇一	二、三七六
腸窒扶私	二、五九四	四八二	九、六〇九	二、一一〇
痘瘡	四	―	七〇	六
發疹窒扶私	一	―	七	四
猩紅熱	一	―	八四	二
實布垤利亞	四九二	一四四	八、七五五	二、五八七
ペスト	三	三	二三	二三

▲腦脊髓膜炎とペスト　過般流行の腦脊髓膜炎と其周到なる注意と市民一般の警戒により漸く鎮靜の姿となり廳令發布以後今日迄の患者は四十九名なりしと又ペストの如きも一旦撲滅に歸したるが如きも二者とも何時襲來するも圖り難ければ尙官民一致して豫防法を勵行するは尤も必要なりといふべし

▲通俗衛生寶典の豫約　本書は醫學界に其人ありと知られたる醫學士竹中成憲氏の著書にして諸病の原因及豫防養生法等より病者の爲めには醫師の來る迄の注意手當等を懇切に說かれ全部を總論各論の二篇に分ち後篇には二百に近き疾病を(いろは別)として讀者の求めんとする病名を(いろは)を以て引き得る事とせるものにて總ふり假名付と云へば極めて便利なるものなるべし

豫約實價金五十五錢豫約申込額金十五錢

申込所は千葉縣香取郡佐原町好文堂なりといふ

▲私立東京歯科醫學校開設　ドクトル久保田皷麿氏校長となり京橋區本入丁堀四丁目に同校を設立し米國大學歯科部と連絡を通じ最近の學說を敎授し完全なる歯科醫を養成するにありといふ

▲歯科醫高橋虎一氏　今回帝國大學歯科教室の介補を囑托せられたりといふ依りて氏の自宅診療時間は毎日午後一時より六時迄とし高橋孝子氏は從前の通午前九時より午後四時迄治療を擔任さるべしといふ



大日本婦人衛生會記事

十一月例會

本月七日第一土曜日午后正一時半より本會の例會を麴町東京女學館講堂に於て開く醫學博士三宅秀君には前回に續き腹藥の注意を相かわらすいと精細に講話せられ醫學博士朝倉文三君には腎臓病の話に付其原因病狀及療法の難易等同病に關する諸般の注意を繪圖に就き詳述せられ午後四時過一同散會せしが役員には岡山とし子松平芳子羽田三緒子、濱尾副會長田村さ代子岡田とく子岸すみ子三浦敦子高木かう子關むら子（出席順）の諸氏に會員及女學館生徒の多數なりき

▲正誤　前號雜誌例會記事の部總裁殿下の御舊性を錄せしは東伏見宮妃殿下と記載すべき義なり右謹みて正誤致し候也

●感謝狀　前高崎支會長井口德子には今般東京へ轉住に付き同會長辭退のことは前號誌上既に揭載せしが本會々長より此程仝氏に對し感謝狀を送られたり

●高崎支會報告

九月例會

九月五日（土曜）午後一時より宮元町高等小學校内に例會を開く三橋幹事先つ開會を告け次て入會者及び轉出者等の報告を爲し夫より講話に移る第一席高草木又吉郎君は「梅毒と眼の關係」と題し梅毒の歴史

より病毒の眼部へ移行の要領を叙し之に基因する眼の諸病を列擧して其危險を說き進て之が豫防法を先天後天に二大別し甲には主として結婚に對する注意乙には個人品性の涵養、道義志操の高潔より各器物に對する注意を詳說し殊に乳母撰定の必要、吸付烟草、借手拭等の危險を一々例證を數へて懇話し結局本病の豫防は實に道德的にして亦國家的利益たる事を痛論せらる次に

會員一同は室外に出て藤棚の下陰に於て三橋幹事の「オルガン」に和し遊戯運動の娛樂を爲し再び會場に復席す

第二席秋田聰太郎君は「皮膚の機能」と題し先つ皮膚の解剖的造構を略叙し進て組織的各部官能、分泌、呼吸、縮張等の作用より體溫及び體內諸臟器との關係、新陳代謝幷に慣習等の生理的機能を明にし延て衛生上に及ぼす機轉を簡易に說明して大に肌膚鍛固法殊に冷水摩拭の實行を奬勵し以て本會雜誌所揭の諸說を稱揚せられたり第三席水谷梅次郎君は「牛乳の話」と題し我邦に於ける牛乳飲用の濫觴より話頭を起し乳の一般效用、人乳との異同及び世俗の迷信を說き育兒上の注意より牛乳の得失、奸商の不德義幷に其實例、法令嚴施の必要、簡易檢乳器の効否、細菌繁殖の狀態、消毒滅菌の必要等に論步を進め「ソ」氏創案の滅菌器に擬したる簡便器二種を標示して其使用法を懇話せらる

右終て井口支會長閉會を告く散會に先ち星野副會長は來月例會の件に就き豫告する所ありたり

●十月例會

十月四日(日曜)此度は例會に兼て校舍衛生見學かた〳〵同市末廣町高等女學校を參觀せり

此日役員は午前中に同校に參集し參觀に就ての準備を爲し又休憩中に役員會議を開き支會長に關する件を議決し正午よりは來着の會員を案內して休憩室に導く

午後一時二十五分高等女學校長鈴木雄二郎氏は豫め參觀に就ての注意として校舍の設備、敎場寄宿舍庖

厨浴室の有様より氣容面積換氣採光就學及健康狀態、食餌、攝養、病類又は机椅子の結構、起居、洒掃、應待等の事等一々詳細に或は實物に就き或は圖面に或は統計に表し或は他との比較を擧け懇切丁寧に詳述せられ夫より自ら嚮導して各室を巡る其巡覽中も要所々々に於て説明あり寄宿舍家事定習室の完備幷に蒸溜裝置の庖厨浴室等は大に人目を惹きたる如し

右終て携行の茶菓に小休の後ち理科室に於て高崎尋常中學校敎頭砂崎德三氏は先つ宇宙間電氣現象の梗概より「ヘルツ」氏の電話説を簡單に明瞭に講話せられ次て「コヘラ」其他の説明を爲し器械を裝して無線電信の通信術を實際に示されたり次て「レントゲン」光線の由來を略叙せられ「ガイスレル」管其他の説明を爲してＸ光線の應用を二三の物品及人躰に就て照示せられたり

次て鈴木校長は別室に於て「精神の衞生」と題する一場の講話あり和漢洋古今の實例に鑑み大に心の修養は物質的衞生と相俟て必要なる所以を章に分ち段を重ね最懇切に講話せられたり次て特別贊成員星野傑光君は支會を代表して一場の謝辭を演べ午後五時三十分一同はイト樂しく散會せり

此日は日曜の休業なるにも拘はらず鈴木校長始め鈴木敎頭高草木校醫其他二三職員の特に登校せられて懇切に斡旋せられ大に見學の便宜を與へられたるは一同の深く感謝せし所なり

●茨城支會報告

十月例會

以來月の尤め終の日曜日正午十二時より例會を開く事と改正せしが本十月の都合により第三日曜十八日を以て正午開會す然るに本日の講師本縣書記官西久保氏波多野病院長なりしに何れも俄に差支にて不參の爲豐田副會長開會の辭をのべ且所感とする所一二件をのべて其より出席員一同好文亭園内運動をなし午後二時より茶菓にて各自談話をなし終りて來月の件等報告して午後三時閉會す出席者寺原會長

以下七十名

●宇都宮支會報告

支會長　是迄臨時會長代理として小田切とわ子氏其任を追はれしが此度菊池より子會長に推選せられ承諾せられしといふ



●本會入會者

○八王子　宮崎朝子紹介
●埼玉縣入間郡豐岡町字黑須　通常會員　伊藤　良久子

○廣島　日下恒子紹介
●廣島縣安藝郡府中村　通常會員　二宮　政野子

○芝　伊藤俊子紹介
●鳥取縣伯耆國米子町大字立川二丁目　通常會員　岡島　沖津子

○芝　福島鶴子紹介
芝公園二十一號　通常會員　松野　薫子

○事務所へ申込
●牛込區赤城下町四十二番地　通常會員　匂坂　きく子
●埼玉縣入間郡高萩村森田新田五　通常會員　吉野　もと子

●相州小田原十字町天王横町　通常會員　村井　たか子

○信州　常田薫君紹介
●信濃國下高井郡平岡村四百五十一　賛成員　山田　重德君

●山形支會

○北島學士紹介
●山形　通常會員　本多　基子
●仝　通常會員　伊藤　玉子

○國井幹事紹介
●山形　通常會員　關原かめゐ子

○堀しか子紹介
●山形　通常會員　勝野　清子

●宇都宮宮支會入會者

○稲井評議員紹介
●宇都宮市日野町　通常會員　篠崎　やす子

●新潟支會

○幹事　和田くに子紹介
●新潟市礎町二ノ丁　特別會員　南　むね子
●南蒲原郡三條町三ノ丁　通常會員　廣川　靜子
●新潟市本町通四番町　通常會員　山田　さく子

●茨城支會

○幹事鈴木すゑ子紹介
●水戸市高等女學校　通常會員　秋山　やす子
●仝　通常會員　鯉淵　こま子
●仝　通常會員　飯田　しほ子

○會員鈴木みね子紹介
●水戸市上市寺町十四　通常會員　山口愛子

○會員吉野ふゆ子紹介
●西茨城郡笠間町愛宕町　通常會員　酒井時子

○幹事　小田梅の子紹介
●北海道後志國壽都實業女學校　通常會員　高見末子
●水戸市上市備前町　通常會員　大沼てい子

●高崎支會

○青木ふさ子紹介
●高崎市堰代町七十八番地　通常會員　秋山なか子

○評議員栗野まる子紹介
●高崎市龍見町三十九番四　通常會員　三澤豊子
●仝市仝番地　池田こま子



●轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●京橋區日吉町六番地へ　伊藤とく子
●牛込區中里町二十三番地へ　森しん子
●牛込區東五軒町二十四番地へ　足立寛君
●神戸市中山手通七丁目四十番地ノ七へ　松岡雪子
●京橋區南佐柄木町五番地へ　守屋千代子
●神戸奥平野村三十八ノ九へ　池田その子
●神戸市楠町四丁目四十番屋敷へ　飛石桑子
●本郷區根津西須賀町九番地へ　林久尾子
●長崎市夫婦川へ　千布都代子
●長野縣更級郡村川柳村石川二四四へ　田中そみ子
●神戸市兵庫西出町花園醫院内へ　武田まち子
●對馬國嚴原玉分町へ　鹿野とめ子

●交換寄贈雜誌（十月分）

●日本赤十字	京橋區南傳馬町一ノ七	日本赤十字發行所
●統計集誌	京橋區山城町六	東京統計協物會事務所
●なんな	麴町區下六番町三十七	大日本女學會
●大坂醫學會雜誌	大坂市東區淡路町一ノ卅八	大坂醫學會
●教育實驗界	本郷區森川町一	育成會
●通俗衞生	大坂市西區土佐堀通三ノ廿九	大坂私立衞生會事務所
●大日本婦人教育會雜誌	赤坂區表町二ノ十三	大日本婦人教育會事務所
●藥學雜誌	牛込區新小川町二ノ八	日本藥學會事務所
●國家醫學會雜誌	本郷區富士町一	國家醫學會雜誌發行所
●婦人世界	大坂南區末吉橋通四ノ六十一	浪華婦人會
●産科婦人科學雜誌	日本橋區濱町三ノ七	産科婦人科學會事務所
●佛教文藝	芝區三田綱町一	鶏行會叢誌出版部
●學校衞生	芝區南佐間町二ノ十八	學校衞生研究會
●經濟新報	麴町區永田町二ノ七十三	經濟新報編輯部
●婦女新聞	牛込區東五軒町四十一	婦女新聞社
●愛國婦人	麴町區下二番町三十七	愛國婦人發行所
●藥石新報	大坂市西區江戸堀下通三ノ卅六	藥石新報社

●工手の母	大坂市北區西野田新家西の町番外三百二十五	工手の母新聞社
●草樂新聞	大坂市南區心齋橋筋二ノ百七	艸樂新聞社
●日本衛生週報	甲府市代官町廿六	日本衛生週報社
●防長醫事	山口縣吉敷郡山口町錢湯小路千七十二	防長醫事社
●家庭新聞	熊本市新坪井町廿三	家庭新聞社
●兒童教育	神田區末廣町十	兒童新聞社
●農產時報	府下豐多摩郡淀橋町柏木百三	農產商會
●日本女學生	本鄉區東片町百三十三	日本女學生會
●工業雜誌	京橋區尾張町一ノ一	工業雜誌社
●日本婦人	府下豐多摩郡澁谷村常盤松御料地內	帝國婦人教會
●大日本耳鼻咽喉科會々報	本鄉區丸山新町廿番地	大日本耳鼻咽喉科會事務所
●衛生報知	神戶市相生町一ノ廿七	私立神戶市衛生會
●京濱實業新報	神田區北神保町八	京濱實業新報社
●東京藥事新報	京橋區楓町四	東京藥事新報社
●東京教育雜誌	神田區一ツ橋通町廿一	東京教育雜誌發行所
●豐國新聞	京都市下京四條通油小路西入	豐國新聞京都局
●體育	麴町區飯田町二丁目	日本體育會
●大日本私立衛生會雜誌	京橋區宗十郎町七	大日本私立衛生會
●婦人新報	赤坂區榎坂町	婦人新報社
●婦人	神戶市三ノ宮一丁目	婦人協會
●廣島衛生醫事月報	廣島市猫屋町	廣島衛生醫事月報社

●越佐教育雜誌	新潟市寺裏通	越佐教育雜誌社
●婦人と子とも	本鄉區女子高等師範學校內	フレーベル會
●山陽新報	岡山市榮町	山陽新報社
●近畿評論	京都市河原町荒神口上	新聞雜誌新著述縱覽所
●白梅	神田錦町三ノ一	大日本看護婦人矯風會
●新潟縣衛生會雜誌	新潟縣廳內	新潟縣衛生會
●割烹新聞	神田區佐久間町四丁目	家庭割烹實習會
●射行會叢誌	芝三田綱町一番地	射行會叢誌社
●藥事新報	京橋區桶町四番地	東京藥事新報社
●齒科醫學會々報	芝區今入町十一番地	齒科醫學會
●神經學雜誌	小石川區駕籠町醫科大學內	日本神經學會
●第五回內國勸業博覽會報告		大阪私立衛生會



此暖爐ガ他器ニ優リ衛生上害ク有益ノ特長アル説ハ岩佐侍醫足立軍醫監岡村醫學博士栗本醫學博士桐淵醫學博士始メ五十余ノ醫學士ドクトル方ヨリ御賞用受居ニテ知ル可ク候◎◎本器ノ特長ハ◎◎

日本室用
木炭焚

暖爐

烟突不要



少量ノ炭火ニテ室内全體ヲ平均ニ快ク温暖ニ成シ◎温度ノ上昇自在ニ◎他ノ暖爐ニ於テ免レ難キ燒燃ヨリ起ル有害瓦斯ノ發生ヲ防止シ◎室内空氣ノ乾濕ヲ適度ニ自調シ◎火氣にのぼせる憂無ク◎極微ノ灰燼飛散無ク◎烟突ヲ要セズ◎火ノ用心安全ニ◎移動自在ニ◎炭最經濟ニ◎形狀優美堅固ニ實用裝飾完備ス◎最良鋼鐵板製改良

◎◎有益ノ證◎◎本器ヲ他器ト比較御試驗ノ後多數御賞用ヲ受タル内有名ナル病院二三ノ例ヲ擧レバ東京府立病院三十個日本赤十字社五個宮城縣立病院十個仝縣醫七個東洋内科醫院前後合計三十五個東京眼科病院五個尊生醫院七個朝鮮釜山公立病院五個京都東山病院十個能登七尾病院七個山形濟生館五個◎文部省外務省農科大學東京府立永樂病院栃木縣立病院兵庫縣立病院島根縣立病院以下各縣立私立病院醫師方ヨリ二三個宛ノ御需要實ニ枚擧ニ遑アラズ◎又醫學者方ニテハ河村海軍大軍醫殿醫學士馬島永德殿仝高田耕安殿仝田代義德殿仝井上豐太郎殿ドクトル川上元次郎殿仝松陽太郎殿仝山上兼輔殿仝富士川游殿仝湯川玄洋殿森醫學士殿橋本醫學士殿野田醫學士殿田中醫學士殿倉田一等軍醫殿和田一等軍醫殿熊野醫學士殿櫻田醫學士殿齋藤醫學士殿安藤醫學士殿以下五十餘ノ醫學士方ヨリ數個ヅヽ御賞用ヲ受大抵御試用ノ後直テ御用命受効力著明ノ御賛辭ヲ忝フ致居候

正價荷造費共金六圓也
東京市麹町區隼町廿番地

山本賣店

●產婆看護學自宅獨習會員募集●

目下入會に最便也

●本會は看護婦及產婆試驗に應ぜんとする者又は業務多忙にして通學の余暇なき者の爲めに毎月二回講義録を發行し最新式の方法を以て通信教授するものとす尚且つ現に其職に在る者に向ひても好參考書たり今回課目を改增し此際大に會員を募集す

●科目は看護法解剖學及生理學の大要傳染病豫防法及消毒法急救法繃帶學電氣學藥物學大意衞生學大意病理學大意產婆學姙婦產婦及嬰兒の看護法生理及衞生學的飲食物の調理法等にして講師は斯業各專門家

●產婆及看護學共各十二冊を以て完了六ヶ月卒業

●實地研究希望者には實地研究の便法あり

●學費前納一ヶ月金參拾錢六ヶ月金壹圓五拾錢

●卒業後本會採用若くは望みの處に紹介す

●規則書入用の方は二錢郵券送られたし

東京市神田區錦町三丁目一番地

●產婆看護婦通信講習會●

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の獎勵又は災難事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治卅九年四月創立

事務所新潟市學校町二番町四十七
和田くに子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市柳川町百十八番地●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市柳川町百十八番地

高崎支會

目取郡佐原町
八堂　堤　安　五　郎
記のもの好文堂に持合居候間御求被下度候
新刊　正價　貳圓卅錢　郵税　拾五錢
新刊　仝　四拾錢　仝　四錢
仝　八拾錢　仝　八錢

●ぐ
にるべく奉存候御堂の御方は往復ハガキを以て御照
發行元　好文堂　堤安五郎

此所切斷

一部實價金五拾五錢　郵税六錢
込金拾五錢相添へ及注文候也（殘金四十錢）

字　番地
御氏名

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衞生會徽章規程

第一條　大日本婦人衞生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢
●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黑塗箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數に應じ本會雜誌進呈の事

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衞生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行人　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷人　渡邊智

明治三十六年十二月十五日印刷及發行
婦人衞生雜誌第百六拾八號（毎月一回十五日發行）

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷